

嘉手納町スポーツツーリズム基本構想

令和5年3月

嘉手納町

目次

| | |
|--|----|
| 1-1. 事業背景・主旨..... | 3 |
| 1-2. 事業目的..... | 3 |
| 1-3. 事業内容..... | 3 |
| 2-1. スポーツツーリズムとは（国の動向を含む） | 4 |
| 2-2 沖縄県の動向..... | 5 |
| 2-3 スポーツツーリズムの現状について..... | 6 |
| 2-4 県内のスポーツツーリズムにかかわる実態（受入体制・取り組み） | 7 |
| 2-5.近隣地域スポーツコンベンションの状況..... | 12 |
| 2-6 県外のスポーツツーリズムにかかわる実態（受入体制・取り組み） | 13 |
| 2-7 海外のスポーツツーリズムにかかわる実態（受入体制・取り組み） | 15 |
| 2-8 スポーツツーリズムにおける経済的な効果..... | 17 |
| 3-1. 嘉手納町の状況 | 20 |
| 3-2.スポーツ施設の配置図からみる町の現状..... | 21 |
| 3-3 スポーツ施設の規模..... | 22 |
| 3-4 スポーツ施設の利用状況..... | 23 |
| 3-5. 嘉手納町と観光..... | 27 |
| 3-6 スポーツツーリズム受入状況..... | 29 |
| 4-1.施設面の課題..... | 33 |
| 4-2 受入体制の課題..... | 33 |
| 4-3 経済的な課題..... | 33 |
| 5-1.嘉手納町においてスポーツツーリズムを実施する意味..... | 34 |
| 6-1.スポーツチーム合宿誘致における「今後の戦略的競技の選定」..... | 39 |
| 6-2.今後のアーバンスポーツについて..... | 42 |
| 6-3.受け入れ後の波及効果..... | 44 |

1. 事業概要

1-1. 事業背景・主旨

嘉手納町では、町域面積の82%を占める嘉手納飛行場に隣接する形で市街地が形成されて、その飛行場周辺地域では、航空機の頻繁な離発着による騒音問題等が負担となっています。また、限られた市街地の中で計画的な公共施設等の整備、配置が難しいなどのまちづくりを進める上でも重荷となっています。そうした中、嘉手納飛行場に近接する屋良城跡公園並びに嘉手納野球場については、老朽化等の状況もあり、リニューアルが求められ、対策が急務となっており、その方向性を示す必要があることから『嘉手納飛行場周辺まちづくり構想』を策定しています。これによりスポーツ施設のリニューアルを通じた地域活性化を図れる可能性が高まっています。

1-2. 事業目的

沖縄県内には国内外から多くのスポーツ団体が合宿を実施しています。そのため、国内有数のスポーツキャンプ地となっており、観光振興や青少年の健全育成など地域の活性化に大きく寄与しています。本町においては、スポーツドームや陸上競技場、兼久体育館など様々なスポーツ施設が東西に集中しており、野球場及び兼久体育館のリニューアルが計画され、今後スポーツ施設が充実し、スポーツを通じたまちづくりの可能性がさらに広がることが期待されます。スポーツ施設資源を活かした取り組みとして、プロスポーツチームの合宿・誘致やスポーツ大会の誘致など経済波及効果や集客力の高さを比較し、競技を選定し、スポーツを通じた新たなまちづくりの戦略を構築する必要があります。本業務では、こうした背景を踏まえ、国内外のプロスポーツチーム合宿や各種大会等の誘致及びスポーツを通じたまちづくり等の調査及び分析を行い、本町のスポーツツーリズムについての可能性調査を取りまとめることを目的とします。

1-3. 事業内容

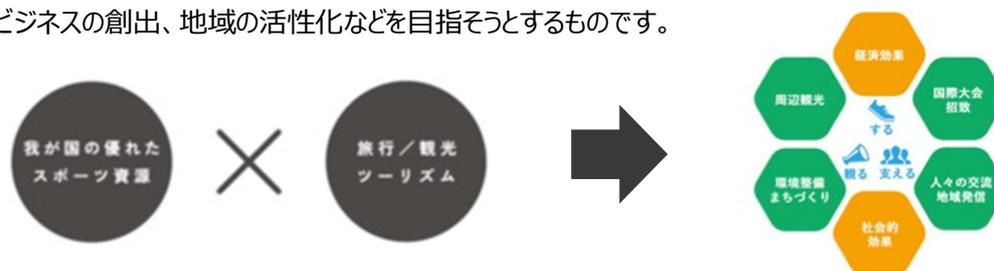
本事業推進における業務内容は以下の通りである。

- (1) 県内・県外・海外におけるスポーツツーリズムの実態調査・分析
- (2) スポーツツーリズム庁舎内検討委員会資料作成
- (3) スポーツツーリズム基本構想に係る業務・実態調査の分析
 - ア) 県内・県外・海外におけるスポーツツーリズムの実態調査・分析
 - イ) スポーツツーリズム誘致の意義及び必要性等
 - ウ) 本町のスポーツ資源を生かしたスポーツツーリズムの基本的考え方及び方向性策定
 - エ) 誘致に当たっての課題・諸条件の整理
 - オ) スポーツ合宿誘致に向けたロードマップの作成
 - カ) 調査結果を踏まえたスポーツツーリズム実施に向けた基本構想の策定
- (4) 成果品の作成
 - ア) スポーツツーリズム基本構想策定委託業務報告書

2. スポーツツーリズムについて

2-1. スポーツツーリズムとは（国の動向を含む）

「スポーツツーリズム」とは、スポーツ資源(観るスポーツとするスポーツ)とツーリズム(観光)資源を融合する取組みのことであり、具体的には、「スポーツ参加や観戦を目的とした旅行と、それらを実践する仕組みや考え方」と定義することができます。スポーツツーリズムの促進により、豊かな観光資源の創造、新しいビジネスの創出、地域の活性化などを目指そうとするものです。



令和4年度（2022年）にスポーツ庁では「第3期スポーツ基本計画」が策定。中長期的な基本方針を踏襲しつつ、第2期計画期間中に生じた社会変化や出来事等を踏まえ、国民がスポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できる社会を目指すために、新たな3つの視点が追加された。

スポーツ市場の拡大・活性化：スポーツ市場規模 15兆円の達成（2025年まで）

スポーツ・健康まちづくりに取り組む 地方公共団体の割合 15.6%⇒40%

令和4年度（2022年）にスポーツ庁では以下の新たな3つの視点として「第3期スポーツ基本計画」が策定されている。

①スポーツを「つくる/はぐくむ」

社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し・改善し、最適な手法・ルールを考え、作り出す。多様な主体が参加できるスポーツの機会創出、自主性・自律性を促せるような指導ができる質の高いスポーツ指導者の育成、スポーツ界におけるDXの導入

②「あつまり、ともに、つながる」

様々な立場・背景・特性を有した人・組織があつまり、課題の対応や活動の実施を図る。スポーツを通じた共生社会の実現、スポーツ団体のガバナンス、経営力強化、関係団体等の連携・協力を通じた我が国のスポーツ体制の強化。スポーツを通じた国際交流

③「誰もがアクセスできる」

性別や年齢、障害、経済・地域事情等の違いによって、スポーツ活動の開始や継続に差が生じないような社会の実現や機運の醸成を図る。地域において、住民の誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」等の機会の提供、アスリート育成パスウェイの構築及びスポーツ医・科学、情報等による支援の充実、本人が望まない理由でスポーツを途中であきらめることがないような継続的なアクセスの確保

2-2 沖縄県の動向

沖縄地域においてもスポーツ振興に向けた取り組みが進められている。沖縄県は、組織改編を行い2012(平成 24)年度から「文化観光スポーツ部」を設置し、その中に「スポーツ振興課」を新設し、各種計画の策定や実施などを通してスポーツ振興を進めている。

・『スポーツアイランド沖縄』の形成

県民がスポーツに親しみ健康の維持・増進が図られる生涯スポーツの推進や競技スポーツにおけるトップアスリートの育成、県民がスポーツに触れる機会の創出を図るとともに、地域振興にも寄与するスポーツコンベンションを推進することにより、スポーツアイランド沖縄の形成を目指します。

このため、生涯スポーツ・競技スポーツの振興については、スポーツ・レクリエーションイベントの開催や総合型地域スポーツクラブの創設・育成の促進により、生涯スポーツ社会づくりを推進するほか、小学生から社会人までの一貫した指導体制の充実や競技力の向上、スポーツ指導者の養成・確保、スポーツ医・科学の観点からのサポート等により、国内外において活躍するトップアスリートの育成に取り組んでいます。

・『沖縄県スポーツ推進計画』

沖縄県は2013(平成 25)年3月『沖縄県スポーツ推進計画』を策定している。同推進計画は、『沖縄 21 世紀ビジョン基本計画』のスポーツ分野に係る個別計画として位置づけられ、「今後のスポーツ振興のあり方、スポーツ活動の普及・推進による活力ある地域社会の形成及び新たな産業の振興について、基本的な方向性」が示されている。

| | |
|-------|--------------------------------|
| 将来像 1 | 沖縄らしい自然と歴史伝統、文化を大切にするスポーツアイランド |
| 将来像 2 | 心豊かで、安全・安心に暮らせるスポーツアイランド |
| 将来像 3 | 希望と活力あふれる豊かなスポーツアイランド |
| 将来像 4 | 世界に開かれた交流と共生のスポーツアイランド |
| 将来像 5 | 多様な能力を発揮し、未来に拓くスポーツアイランド |

上記の将来を具体化していくための施策と方向性に以下の7つが掲げられています。

| | |
|---|--------------------------------|
| 1 | 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実 |
| 2 | 一人ひとりのライフステージに応じたスポーツ活動の推進 |
| 3 | 住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備 |
| 4 | トップスポーツを目指す競技力の向上に向けたスポーツ環境の整備 |
| 5 | トップスポーツと地域スポーツの連携・協働の推進 |
| 6 | スポーツを活用した地域活性化の推進 |
| 7 | 地域のスポーツ資源を活かした特色あるスポーツの推進 |

2-3 スポーツツーリズムの現状について

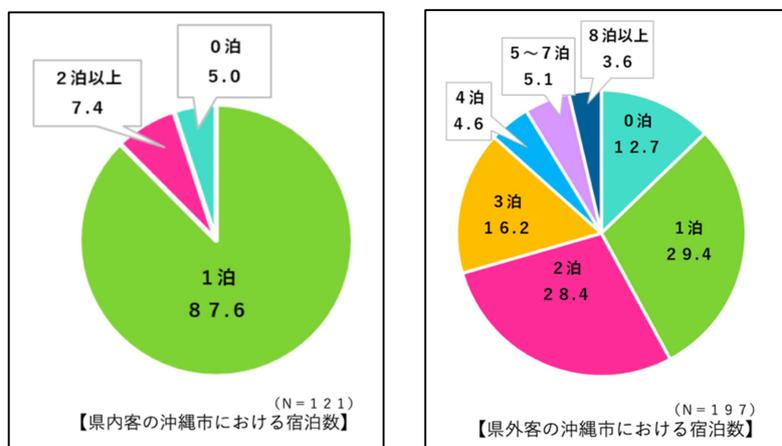
県内においてもスポーツ振興に向けた取り組みが進められている。

・沖縄県沖縄市の観光施設入場者数（出典先：出典:第2次沖縄市観光統計調査実務法計画より）

| 事業名 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 |
|--------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 主要観光施設における年間入場者数合計 | 3,473,686 | 3,691,999 | 3,852,782 | 3,896,090 | 2,099,989 |

令和2年はコロナ禍の入場制限などにより、大幅に減少していますが、R2年度以降は回復基調にある。

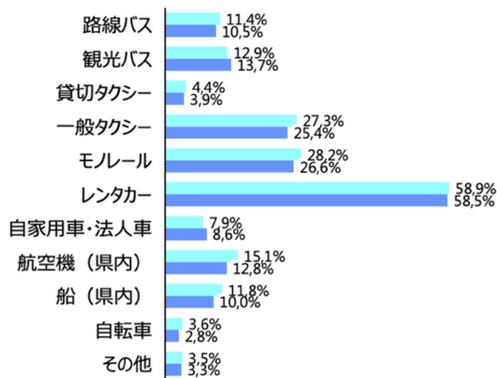
・沖縄県沖縄市内宿泊日数



県内客の市内宿泊数は、「1泊」が87.6%と最も多くなっています。

県外客の市内宿泊数は、「1泊」が29.4%と最も多く、次いで「2泊」が28.4%となっています。「8泊以上」が3.6%となっている一方、「0泊」は12.7%となっています。「1泊」と「2泊」が50%以上を占めていることから、県内外からの宿泊客は短期間ではあるが、立地柄ほとんどが宿泊を伴う来場であることがわかる。宿泊費が合計消費額に占める割合としても約50%と言われており、経済波及効果を高めるために、選手やスタッフだけではなく、来場客にとっても消費割合が最も大きい宿泊施設は不可欠である。

・利用交通機関（観光統計実態調査 H29年度版より引用）



また移動について、沖縄という土地柄、個人の移動の際はレンタカー利用率が50%以上を占めている。空港から現地までの距離が比較的長く、キャンプ・合宿誘致の際、選手・スタッフ共に路線やチャーターバスで移動して現地集合・現地内移動という形をとっている。宿泊先や観光協会を含めた担当部署により、何かしらの対応を行っている自治体が多く、地元の協会をはじめホスピタリティー精神で送迎をやってくださる場合がある。バスやタクシー会社との連携も求められる可能性が高いといえる。

2-4 県内のスポーツツーリズムにかかわる実態（受入体制・取り組み）

・沖縄市

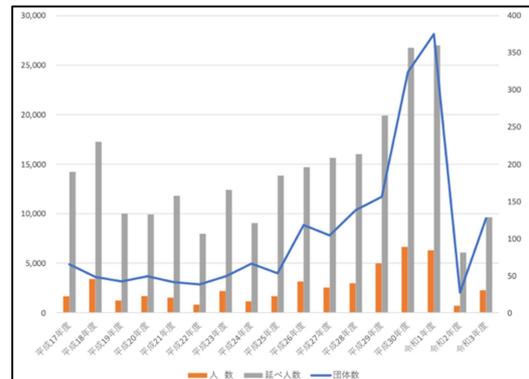
| | |
|--------|--|
| 地域設立日時 | 沖縄県・沖縄市 沖縄市スポーツコミッション・1996年 |
| 設立経緯 | 1996年にスポーツによる交流まちづくりをめざし「スポーツコンベンションシティ」宣言 |
| 実施主体 | 沖縄市観光物産振興協会 |

沖縄市は沖縄市スポーツコミッション（一般社団法人 沖縄市観光物産振興協会）を設立している。また平成26年度～10年計画として「スポーツ推進計画」を策定して以下3つの基本理念と3つの目標を掲げている。（引用元「沖縄市スポーツ推進計画～概要版～」）

・スポーツ合宿受入実績

・沖縄市スポーツ合宿実績集計表

| 年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 団体数 | 65 | 48 | 42 | 49 | 41 | 38 | 49 |
| 人数 | 1,651 | 3,403 | 1,220 | 1,678 | 1,505 | 800 | 2,188 |
| 延べ人数 | 14,213 | 17,251 | 9,991 | 9,912 | 11,795 | 7,957 | 12,400 |
| 年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 |
| 団体数 | 66 | 53 | 118 | 104 | 138 | 156 | 324 |
| 人数 | 1,140 | 1,672 | 3,146 | 2,530 | 2,970 | 4,976 | 6,640 |
| 延べ人数 | 9,043 | 13,849 | 14,688 | 15,629 | 16,011 | 19,911 | 26,742 |
| 年度 | 令和1年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | | | | |
| 団体数 | 375 | 27 | 127 | | | | |
| 人数 | 6,301 | 693 | 2,261 | | | | |
| 延べ人数 | 26,986 | 6,074 | 9,632 | | | | |



* 引用先：平成17年から平成25年までは「沖縄市観光協会総会資料」

* 平成26年と平成27年は沖縄市観光協会総会資料とホテル報告より、平成28年～はホテル報告より集計

合宿受け入れ人数については、平成25年度から増加傾向にあり、令和元年度には過去最高となりましたが、令和2年はコロナ禍の影響により大幅に減少している。令和3年は新型コロナウイルス感染症対策を講じた上での受入により、回復傾向にある。

理念：①生涯スポーツの振興 理念②競技スポーツの振興 ③スポーツツーリズムの振興

目標1：スポーツと身近に触れ合える環境づくり・きっかけづくりの推進

目標 2 : ライフステージに応じた市民のスポーツ活動の推進

目標 3 : スポーツを支える人づくり・地域づくり・まちづくり

平成 8 年 9 月 24 日議決ではスポーツ交流のまちづくりを目的に「スポーツコンベンションシティ宣言」についても発信されている。恵まれた自然環境やスポーツ施設等の資源を活かし、スポーツを通じて新たな沖縄市の魅力を国内外に発信していくなど、戦略的な取組みを図っている。そのため、沖縄県や市内の観光関連団体等とも連携を図ることにより、ブランディングやプロモーションといった誘致活動を積極的に推進していくなど、スポーツ・ツーリズムの振興に取り組んでいます。沖縄県内の最大規模であるスポーツ施設を有し、プロ・アマ問わず数多くのスポーツ団体及び選手がトレーニング・キャンプに訪れている。

・うるま市

うるま市では『うるま市総合計画』や『うるま市観光振興ビジョン』においてスポーツツーリズムの推進が位置づけられており、スポーツを通じた観光振興と地域活性化に向けて、スポーツキャンプや合宿、大会、イベント等の誘致を目指している。スポーツコンベンションの誘致にあたり、目指すべきスポーツコンベンションの方向性を明確にし、その実現に向けて必要な施設の充実と受入体制の構築に取り組んでいる。取り組みにあたっては、市民の施設利用の利便性の確保に配慮しながら進めている。

<主な取り組み>

・地域特性や既存施設を活用したスポーツコンベンションの推進

うるま市においては沖縄本島東海岸に面していることもあり、マリンスポーツも活発に行われている。うるま市は、自然、文化、農水産物、離島の風景など、多様な地域資源を有していることから、これら資源を活用したスポーツコンベンションの誘致に取り組んでいる。なお、取り組みにあたっては、公共施設の市民利用に配慮しつつも、『うるま市スポーツコンベンション誘致戦略』に記載された各戦略を着実に実施して地域の関係団体との連携強化、スポーツコンベンションの推進に向けては、行政機関だけでなく、市内の関係団体との連携協力が不可欠である。今後、本市におけるスポーツコンベンションを推進するため、行政、うるま市観光物産協会、事業者などで構成する推進協議会の設立を検討する。また、県外、海外からスポーツコンベンションの受け入れの問い合わせなどに対応している「スポーツコミッション沖縄」などとも連携を行っている。

・受入環境の整備

スポーツコンベンションを受け入れるに当たっては、市内関係団体との連携協力を強化すると同時に、実際に各競技・種目ごとにスポーツコンベンションの受入を円滑に運営していくためのスタッフなどの人材確保、育成に努める。さらに各種スポーツイベントなどにおける、スポーツボランティア活動もスポーツの楽しみ方や関わり方の一形態であることから、市民に対してスポーツボランティア活動の普及・啓発を行っていく。現状、団体客を受け入れることができる宿泊施設が少ないことから、コンベンションの誘致にあたっては、宿泊施設の誘致など宿泊先の確保に向けた取り組みを進めている。

また、プロ野球キャンプ、阪神タイガースを2023年から受け入れ先である、うるま市は10年間の包括連携協定を結ぶことで、長期の誘致を行うことにより、施設改修に対してチームの要望と施設改修や整備に対する自治体内の双方の改善に繋がる。



・読谷村

読谷村では、平成 21 年 3 月に「第 2 次読谷村観光振興計画」が策定されており、第 1 次計画から推進されている「よみたん型観光」、「よみたん型ツーリズムの確立」の基本的な考え方を踏まえ、村独自の観光資源の連携による活用、村民との協働の仕組みづくり等を進め、今後の読谷村の観光振興の基本的な方向性により観光推進が図られてきました。また、読谷村における観光振興の『基本理念』の実現に向けて、「第 3 次読谷村観光振興計画」では令和 4 年度から令和 13 年度までの 10 年間に取り組むべき、基本方針に沿った施策を示しています。

また平成 30 年度に策定された「読谷村ゆたさむらビジョン」の重点施策を踏まえ、「スポーツキャンプ地 読谷村」が新たなブランドとなるよう国内外に幅広く PR するとともにキャンプ誘致ならびに誘客を通して、観光振興や地域活性化に取り組んでいます。近年では野球やサッカー、ソフトボールやラグビー、陸上競技といった多様な種目のキャンプを実施しており、その理由としては、練習施設だけでなく、練習場と宿泊施設の便利さ、練習のない日には村内の観光施設でリフレッシュできるなど、キャンプに集中しやすい環境が整っていること、また受け入れにあたり、行政をはじめ、商工会や観光協会、各種スポーツ団体で構成した「読谷村スポーツコンベンション受け入れ協力会」を中心とした「よみたん琉おもてなし」も高い評価を受けている。

宜野湾市での取り組み

●宜野湾市

プロ野球キャンプ、横浜 DeNA ベイスターズの受け入れ先である宜野湾市の場合、横浜スタジアムへ年一回の応援表敬ツアーを実施しています。キャンプ期間による県内企業との連携による商品開発の取り組みも行っています。具体的な取り組みは以下の通りです。

・応援ツアー & パンフレット配布

5/13(金)～14日(土)応援ツアー及び球団表敬訪問

横浜スタジアムにて宜野湾市の観光パンフレット配布（史上最多観客動員数:3万2463人達成）

・2022 春季キャンプ 激励式

松川宜野湾市長が代表して、三浦大輔監督へ贈呈

・横浜市、宜野湾市の「ふるさと納税」返礼品

ベイスターズグッズ、両市の「ふるさと納税」の返礼品としてベイスターズ公式グッズをメニュー設定

受け入れ相手の市や町との関係性を構築し、町全体で応援する体制構築を行っていく。その他にも県内の連携企業団体や嘉手納町の取り組みと同様に「横浜 DeNA ベイスターズ宜野湾友の会」を設立すること、行政だけではなく、観光協会や商工会、企業が一体となって誘致に向けての受け入れ体制を作ることが求められていくと予想される。

県内の取り組み事例（宜野湾市）

- ・ 応援ツアー & パンフレット配布
5/13(金)～14日(土)応援ツアー及び球団表敬訪問
5/14は史上最多観客動員数:3万2463人を達成
横浜スタジアムにて宜野湾市の観光パンフレット配布
- ・ 2022春季キャンプ 激励式
松川宜野湾市長が代表して、三浦大輔監督へ贈呈
(以下贈呈企業一覧)
- ・ 横浜市、宜野湾市の「ふるさと納税」返礼品に
横浜DeNAベイスターズグッズ、両市の「ふるさと納税」
の返礼品として横浜DeNAベイスターズ公式グッズが登場

県内の連携企業/団体

横浜DeNAベイスターズ宜野湾友の会
はごろもPM/パートナーズ、宜野湾市飲食業組合
浦添宜野湾漁業協同組合、株式会社野高商会
株式会社ジミー、沖縄県出店業事業協同組合
オリオンビール株式会社、石垣牛専門焼肉金城
霧島酒造株式会社、宜野湾青年連合会



宜野湾市 Ginowan City

宜野湾市商工会

Ginowan City society of commerce and industry

一般社団法人

宜野湾市観光振興協会

JAおきなわ

横浜DeNAベイスターズ応援表敬ツアー



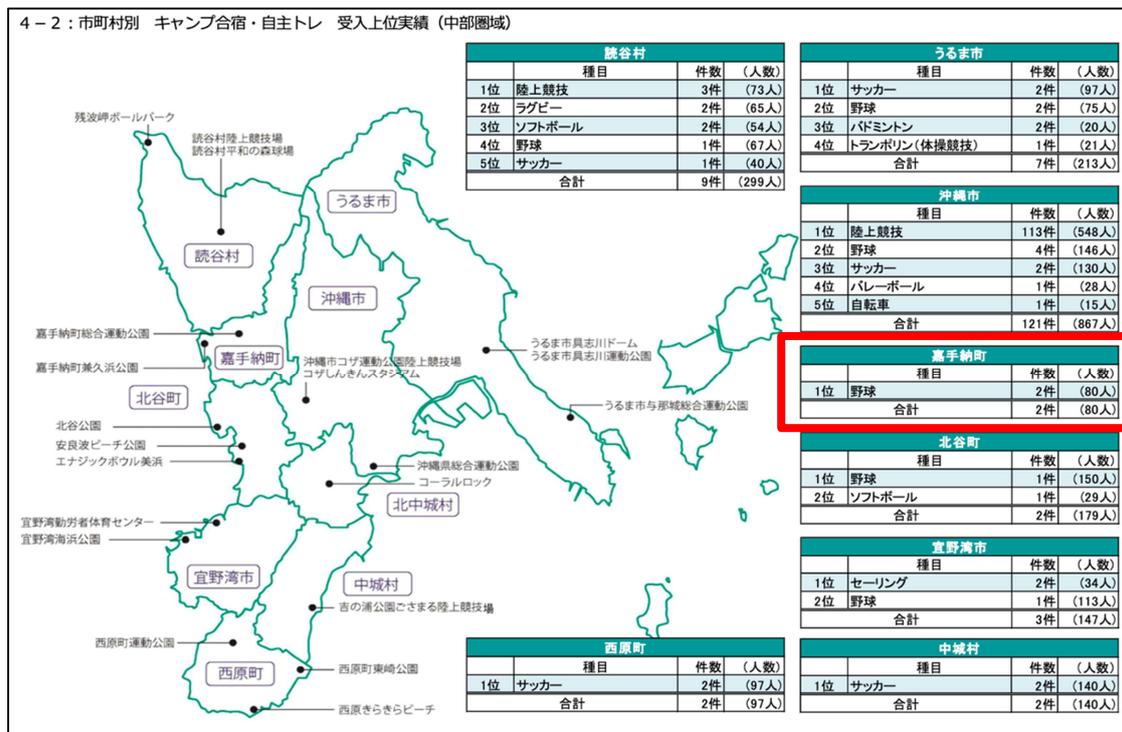
宜野湾友の会 会員専用グッズ



宜野湾友の会 歓迎感謝の夕べ

2-5.近隣地域スポーツコンベンションの状況

参考情報



開催会場(市町村別)キャンプ合宿・自主トレ件数 (概要版) (H30~R2 年度 3か年分)

| 開催市町村 | 累計 | H30 | R1 | R2 | 傾向 |
|-------|-----|-----|-----|-----|---------|
| うるま市 | 27 | 12 | 8 | 7 | 増加傾向にある |
| 読谷村 | 58 | 30 | 19 | 9 | 減少した |
| 沖縄市 | 342 | 96 | 125 | 121 | 減少した |
| 嘉手納町 | 11 | 8 | 1 | 2 | 減少した |
| 北谷町 | 31 | 15 | 14 | 2 | 減少した |
| 北中城村 | 0 | - | - | - | 平年並みである |
| 宜野湾市 | 12 | 5 | 4 | 3 | 減少した |
| 中城村 | 7 | 3 | 2 | 2 | 平年並みである |
| 西原町 | 11 | 4 | 5 | 2 | 減少した |
| 浦添市 | 6 | 3 | 2 | 1 | 減少した |
| 那覇市 | 41 | 18 | 19 | 4 | 減少した |
| 南風原町 | 40 | 18 | 3 | 19 | 減少した |

2-6 県外のスポーツツーリズムにかかわる実態（受入体制・取り組み）

| | |
|---------|--|
| 地域・設立日時 | 鹿児島県・指宿市 スポーツコミッションいぶすき・2020年4月設立 |
| 設立経緯 | 鹿児島国体が契機、国体により整備されたスポーツ施設を活用した誘客増加を見込む |
| 実施主体 | 産業振興部 スポーツ振興課が当スポーツコミッションの事務局を実施 |
| 特徴 | 「スポーツを通じた指宿市の明るい未来づくり」 |

【参考 1】鹿児島県内でのコンベンション実績

| | 日数 | 割合 | 内容 | | |
|---------|-----------------|--------|------------------|--------------------|--------------------------|
| スポーツ | ①国際・全国規模の大会 | 2 | 0.6% | 西日本ドラゴンカップ空手道選手権大会 | ①スポーツ合宿・大会，イベントの運営支援 |
| | ②全県規模の大会 | 107 | 32.6% | 各種競技団体等が主催する県大会等 | ②スポーツ合宿・大会，イベントの誘致・受入 |
| | ③スポーツ興行（入場料徴収） | 6 | 1.8% | Bリーグ レブナイズ公式戦 | ③スポーツ合宿・大会，イベント情報発 PR 活動 |
| | ④その他（上記①，②，③以外） | 209 | 63.7% | 一般利用，各種競技教室等 | |
| ⑤スポーツ以外 | 4 | 1.2% | 鹿児島大学入学式，県戦没者追悼式 | | |
| 計 | 328 | 100.0% | ¹ | | |

【その他】スポーツコミッションいぶすきの活動実績

●スポーツ合宿等の誘致、運営支援

ソループ杯指宿招待繋げよう未来 U-12 サッカー大会、いぶすきワンツースッカーフェスタ
 KYFA 九州シニアサッカー大会、全日本ろう者サッカー選手権大会
 指宿市営野球場リニューアルオープン記念イベント、Jリーグ、WEリーグチーム春季キャンプ視察対応

| イベント名 | 場所 | 対象 |
|------------------|------------------------|----------------------------|
| いぶすきワンツースッカーフェスタ | いぶすきフットボールパーク | 少年団/クラブチーム/合同チーム |
| 薩摩おいどんカップ | 鹿児島市、薩摩川内市、日置市、始良市の4球場 | 県内外の大学や社会人 今後はプロ野球も参加予定 |
| キックボクシング試合の開催 | 市内体育館 | 市内弱年齢層向け |

①観光プロモーション（地域おこし協力隊と観光協会による各種イベントの企画・提案を実施）

1) 競技施設部会、2) 宿泊部会、3) 楽しみ部会などをコミッション内で設置し各部会毎に対応
 指宿砂むし温泉、そうめん流し、鯉節の削り体験（指宿市山川の特産品紹介）

②スポーツツーリズム 指宿市スポーツチームキャンプ実績（2022年1月）

1) 柏レイソル 2) 湘南ベルマーレ 3) サンフレッチェ広島 4) 鹿児島レブナイズ
 地域のイベント、ホームゲーム、ハーフタイムイベント、サッカー試合の際の指宿市ブース設営など

③宿泊&飲食案内、④観光&文化施設案内 ※その他：指宿いわさきホテル（以下参照写真）

1) ~ 4) のJリーグチームや代表チームも受け入れ実績。指宿市側との連携はなく、民間主導モデル
 ※民間ホテル所有によるスポーツ施設に、コミッション以外のツーリズムも積極推進中（指宿いわさきホテル）

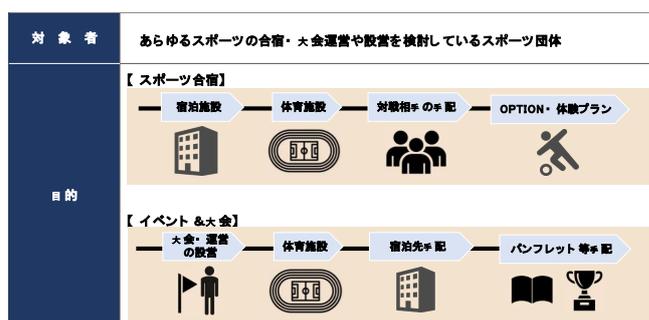
受け入れ体制の先行事例（静岡県御前崎市・しずおかスポーツプロモーション）

| | |
|---------|---|
| 地域・設立日時 | しずおかスポーツコミッション・2018年4月設立 |
| 設立経緯 | 浜岡原子力発電所の稼働停止に伴い人口流出に対する対策として 作業員用の様々な種別の宿泊施設と既存スポーツ施設を活用し誘客増加を見込む |
| 実施主体 | 一般社団法人 しずおかスポーツプロモーション |
| 特徴 | スポーツイベントなどワンストップ対応で受け入れる体制 |

[人口] : 3万人 [中心産業] : 電力、水産、観光 スポーツ振興プロジェクト

[市の強み・特徴]

- ①日照時間が長い
- ②御前崎市は浜岡原子力発電所があった背景で作業員用の様々なタイプの宿泊施設が整っていた
- ③原子力発電の関係で国から交付金を使用したスポーツ施設が多い。今は発電所の稼働が停止し、国から財源が入らず、人口減少（少子化・若年層の人口流出・労働者が県外に出ていく）が進む経済波及効果を担う体制として、現在は行政が中心に計画を進めているが、次年度は観光協会の機能を含め、どのように地域での滞在時間を伸ばし、どのように町に経済効果を高められるのか、どのような戦略で誘致を行っていくかを計画しながら誘致を目指していく。



H29年：人口流出に対する対策スタート、H30年：スポーツ振興プロジェクトスタート

スポーツ交流人口を増やす対策のためスポーツ合宿・キャンプ誘致・スポーツイベント主催などワンストップ型で行う活動として取り組みをスタート。（上記ワンストップ型サポートにおける作業フロー図参照）

・コミッション立ち上げ以降の中長期的な期間でこのプロジェクトで収入を得ることが難しいことを認識。

合宿と比較するとイベント開催の際は1度に来場する交流人口が増加し経済的波及効果も上がることが予想される。合宿だけではない需要に向け今後ハードの整備を進めたい意向を持つ。現在の強みはサッカー部門であり、今後は天然芝・人工芝のグラウンド数を増やして、既存の合宿利用で一度に使用できるチーム数を増やすことを検討中。（以下保有スポーツ施設）

【現在保有するスポーツ施設】

- ①天然：1面（自治体所有：浜岡総合運動場）
- ②天然：1面（民間企業所有：静岡カントリー）
- ③多目的：1面（土）ほか、浜岡野球場

2-7 海外のスポーツツーリズムにかかわる実態（受入体制・取り組み）

地理的な位置関係から、沖縄がアジアのハブ・中心地であることが前提として挙げられます。については、国内や海外から様々なイベント等を誘致・誘客を図ることかできる可能性があるのではないかという視点に立ち、特に東南アジア 10 か国から成る ASEAN（東南アジア諸国連合）は過去 10 年間に高い経済成長を見せており、物理的な距離としての制約はありますが、多様な可能性の調査と具体的な誘致の可能性調査を県外、県内と同様に海外においても行っていくことが必要であると考えられます。

（以下・ASEAN 諸国の可能性ほか）

【ASEAN 諸国・人口・沖縄への移動時間等について】

| 国名 | 人口(単位) 100 万人 | 所要時間 | 時差 |
|--------|------------------|-----------|---------|
| インドネシア | 272.25 | 6 時間 00 分 | -2 時間 |
| フィリピン | 110.20 | 3 時間 00 分 | -1 時間 |
| ベトナム | 98.50 | 4 時間 00 分 | -2 時間 |
| タイ | 69.95 | 4 時間 30 分 | -2 時間 |
| ミャンマー | 53.55 | 5 時間 00 分 | -2.5 時間 |
| マレーシア | 32.70 | 5 時間 00 分 | -1 時間 |
| カンボジア | 15.84 | 4 時間 30 分 | -2 時間 |
| ラオス | 7.38 | 7 時間 50 分 | -2 時間 |
| シンガポール | 5.45 | 5 時間 00 分 | -1 時間 |
| ブルネイ | 0.43 | 6 時間 40 分 | -1 時間 |



ASEAN加盟国地図は、東南アジアの10ヶ国を示しています。国名は色付きのラベルで表示されています：MYANMAR (緑)、LAOS (黄)、THAILAND (青)、CAMBODIA (紫)、MALAYSIA (赤)、SINGAPORE (赤)、INDONESIA (緑)、BRUNEI (赤)、VIETNAM (紫)、PHILIPPINES (赤)。また、フィリピンとインドネシアの間の海域に赤い円で囲まれたマークがあります。

【その他アジア諸国】

| 国名 | 所用時間 |
|---------|-----------|
| 台北（台湾） | 1 時間 15 分 |
| ソウル（韓国） | 2 時間 15 分 |
| 上海（中国） | 2 時間 30 分 |
| 香港 | 2 時間 30 分 |

ASEAN 諸国行きは沖縄からの直行便がなく、台北経由で行くのが、最も近い状況です。一方、ソウルや香港や上海へは国際便が数多く出ているので、海外チームに関しては比較的所用時間の短い国を中心にスポーツツーリズム受け入れの機会が潜在していると言えます。

ASEAN を対象としてインバウンド促進を行う場合には、移動時間や移動の利便性（直行便の有無も含む）を求める人が多い。インドネ

シアから沖縄へ行く場合には 6 時間程度かかるため、比較対象として近隣諸国が競合となります。

オーストラリアにあるパースやシンガポールには 4 時間以内で行けるため、そちらに目が行く人が多いと思う。そのため、対象とするのであれば 4 時間圏内で移動ができる国をターゲットとすることが好ましいと考えられます。本件においては継続した調査を実施する必要があります。

【沖縄空手国際大会等の実績】

2018年に「沖縄空手国際大会」※1を実施しており、那覇市・豊見城市で開催し5,000名以上の空手家が1週間～2週間滞在して開催された。これまで開催してきた大会については、空手発祥の地沖縄を誘致するためのイベントとして実施を行い、対象者は空手家のみとなっていることがほとんどであったが50か国から5000名ほどが1週間～2週間滞在をするツーリズムとなっている為、沖縄県への経済波及効果がある取り組みとなっています※1「沖縄空手国際大会」（左：第1回／右：第2回大会(HP抜粋)



【2018年 第1回大会 開催概要】

開催時期：平成30年8月1日から7日まで



【沖縄アリーナの活用の可能性】

沖縄アリーナを活用したイベント開催ができるとすると魅力的であると考えます。

現在、沖縄県において開催実績のある「沖縄空手国際大会」については、那覇市にある武道館、豊見城市にある空手会館の2カ所で実施をしているため、流派などで開催会場が分かれてしまうことで、見られない試合が出てきてしまっていることから、沖縄アリーナで開催ができることで、1カ所開催でまとめて実施ができることで上記の課題解決につながると考えます。

2022年8月に開催予定の「沖縄空手国際大会」※1も沖縄アリーナでの開催も検討していたが、借用費用が高額であったため、武道館・空手会館の開催を進めていました。空手は沖縄発祥の地とされており、海外にも愛好家が多くいることから、毎年多くの愛好家が沖縄に来て、イベントや講習会などに参加をしています。コロナ禍で2年間開催が中止となっているが、「沖縄空手国際大会」を県内で開催し、誘致を図っていることから、今後も空手を通じた海外からのインバウンドの推進の可能性は大いにある。

2-8 スポーツツーリズムにおける経済的な効果

沖縄県うるま市において、令和2～3年度に東北楽天ゴールデンイーグルス(2軍)の誘致を実施している。令和3～4年度に阪神タイガース(2軍)の誘致を行なっている。スポーツデータバンク(株)の調査では、球団の滞在期間における滞在地域の消費額は以下の通りである。

① (R2年度～R3年度比較) ※参考情報 (当社調べ)

| | 令和2年度 | 令和3年度 |
|----------------|--------------------|--------------------|
| 合宿期間 | 23日 | 34日 |
| 参加選手人数 | 30人 | 35人 |
| 監督等人数 | 40人 | 40人 |
| 宿泊費 (市内ホテル) | 3,300,000円 | 21,780,000円 |
| 昼食費 | 4,180,000円 | 5,989,500円 |
| 夕食費 | 7,640,000円 | 8,712,000円 |
| バスレンタル費 | 1,035,000円 | 352,192円 |
| レンタカー費 | 1,320,000円 | 1,320,000円 |
| ランドリー費 | 5,368,000円 | 6,330,390円 |
| 体育施設使用料 | 1,467,250円 | 2,357,000円 |
| 合計消費額 | 24,310,250円 | 46,841,082円 |
| 市内消費額 | 16,587,250円 | 38,838,500円 |

② (R3年度～R4年度比較) ※参考情報 (当社調べ)

| | 令和3年度 | | 令和4年度 | | 前年度からの増減 |
|--------|--------------------|-------------|---------------------|-------------|--------------------|
| | 各費目合計 | 割合 | 各費目合計 | 割合 | |
| 宿泊費 | 23,198,450円 | 57.1% | 69,147,020円 | 50% | 45,948,570円 |
| 昼食費 | 6,074,100円 | 15.0% | 8,844,320円 | 6% | 2,770,220円 |
| 夕食費 | 8,712,000円 | 21.5% | 7,177,750円 | 5% | ▲1,534,250円 |
| バスレンタル | 352,192円 | 0.9% | 7,296,540円 | 5% | 7,296,540円 |
| レンタカー | 1,653,100円 | 4.1% | 600,000円 | 0% | 600,000円 |
| ランドリー費 | 6,330,390円 | 15.6% | 5,871,460円 | 4% | ▲458,930円 |
| 施設使用料 | 2,613,295円 | 6.4% | 4,425,240円 | 3% | 1,811,945円 |
| 個人消費 | 0円 | 0% | 34,537,000円 | 25% | 34,537,000円 |
| 市内消費額 | 40,597,845円 | 100% | 137,899,330円 | 100% | 97,301,485円 |

※尚、R3年度調査消費額については、計算方法が新型コロナウイルス感染症により異なるため、一部の項目で差異が発生している。

①（R2 年度～R3 年度比較）

R2 年度と R3 年度を比較すると、合計消費額に占める約 50%が宿泊費となっている。経済波及効果を高めるためにも、消費割合で最も大きい宿泊施設はキャンプ誘致において、直接的な経済波及効果を占めている。昼食費が 1,809,500 円増、夕食費が 1,072,000 円増、となった。昼食費・夕食費は昨年度より増加しているものの、単純な増加ではなく、新型コロナウイルスの影響を受け外出自粛や移動制限から、合宿期間の大幅な増加により、増えている宿泊費に含まれる割合も高かったのではないかと予想されます。昨年度と比較して減少した項目はバスレンタル費用であるが、令和 2 年度は全てうるま市外の業者に依頼していたことから、全て市外消費となっていた。一方で、令和 3 年度はうるま市内の業者に依頼したことから市内消費の総額は令和 2 年度と比較して上昇する結果となりました。

- ②R4 年度は合宿期間、及び合宿参加人数も R3 年度と比較して増加している。昼食費や夕食費が全体に占める割合、宿泊費が占める割合は R3 年度と比較すると減少していますが、昨年までは新型コロナウイルスの影響を受け、海外からの渡航制限や国内における外出自粛もあり、限られた団体みの受け入れとなっていたことからの数字であるといえます。個人消費に関しては、令和 3 年度は合宿期間中の外出を制限するルールを各団体が打ち出していたこともあり、個人消費は無かったが、令和 4 年度からは外出を制限する団体も減少したことにより、特にプロスポーツ団体では練習時間以外の自由時間をうるま市内・市外で消費する傾向が強くなったことが読み取れます。昨年度と比較して減少した項目はランドリー費であるが、令和 3 年度は全てうるま市外の業者に依頼していたことから、全て市外消費となっていた。一方で、令和 4 年度は 5,871,460 円をうるま市内の業者に依頼したことから市内消費の総額は昨年度と比較して上昇する結果となりました。

[総評・まとめ]

▼受入体制の実施（ワンストップ受付／プロモーション事業の展開／地域連携/民間事業者との連携）

- ・ワンストップ受付として、宿泊先手配、スポーツ施設の予約、施設パンフレット作成や大会運営・手配、役員や審判集めもスポーツコミッションが受け入れサポートを実施
- ・プロモーション事業の展開においては地域の飲食店をはじめ、地域連携を実施
- ・キャンプ期間による県内の民間事業者との連携による商品開発を積極的に実施
- ・各受け入れ団体により、関係人口及び交流人口を創出するため、地元住民や事業者などが一体となりスポーツツーリズムに関わり地域コミュニティーを築いている

▼経済的な波及効果

- ・全体の合計消費額に占める約 50%が宿泊費、経済波及効果を高めるため、宿泊施設は重要になる
- ・ランドリー費や移動にかかるレンタカー費用、バス費用についても宿泊費の次に消費額に占める割合
先行事例として前述の先行事例自治体は受け入れ体制を整え経済波及効果を高めている

3. 嘉手納町概要

3-1. 嘉手納町の状況

以下へ嘉手納町の基礎的な情報と現状を記載します。

嘉手納町は、13,300 人の住民が暮らし沖縄本島中部に位置し、県都那覇から北に約 23km の位置にある町になります。本町は、東に沖縄市、北に読谷村、南に北谷町と接しており、西は東シナ海に面しています。面積は 15.12km² であり、南北に 8km、東西に 5km の町域を形成していますが、町域の 82%にあたる 12.40km² が嘉手納飛行場や嘉手納弾薬庫などの米軍基地によって占有されており隣接する形で市街地が形成されています。

● 嘉手納町基礎情報※引用先（総務省令和 2 年国勢調査）

| | |
|-------|-------------------------|
| 面積 | 15.12km ² |
| 総人口 | 約 13,521 人※ |
| アクセス | 那覇空港から～ 本町まで車で約 50 分 |
| 所在地 | 沖縄県・中頭郡（なかかみぐん） |
| 隣接自治体 | 沖縄市、中頭郡北谷町、読谷村 |



● 町内の代表的な施設



| | |
|--------|----------------------|
| 施設名 | 道の駅かでな |
| 所在地 | 沖縄県中頭郡嘉手納町字屋良 1026-3 |
| 見どころ | 嘉手納基地展望・お土産 |
| その他・備考 | 駐車場（大型 10・普通車 54） |

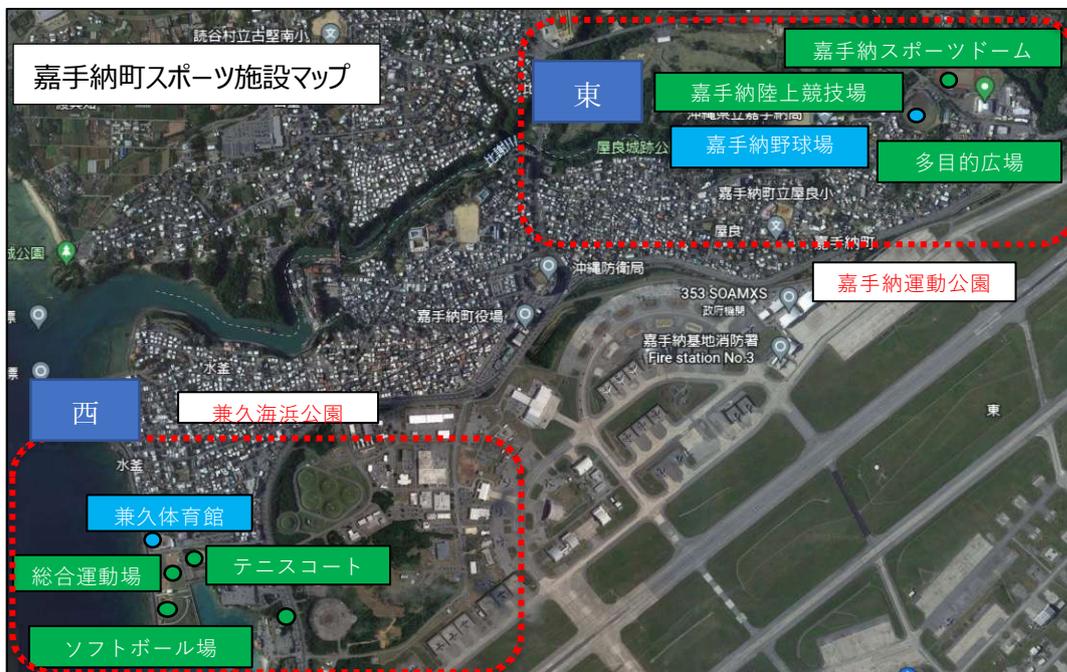
「道の駅かでな」は県内外から年間 55 万人の来場者があり、2022 年には駐車場や飲食店などの増設などリニューアルが図られ、嘉手納町の観光拠点として、多くの人で賑わう「道の駅かでな」。新展望所は基地側にせり出す形となり、基地をよりリアルに感じられるようになっています。また 3 階には学習展示室もあり、平和学習もできる施設となっています。



| | |
|--------|----------------------|
| 施設名 | 比謝川自然体験センター |
| 所在地 | 沖縄県中頭郡嘉手納町字水釜 566-5 |
| 見どころ | マングローブカヤック・サンセットカヤック |
| その他・備考 | 平和学習体験も可 |

本町内を流れる比謝川は、沖縄市に源を発し、東シナ海にそそぐ本島最大の流域面積を有する二級河川です。

3-2.スポーツ施設の配置図からみる町の現状



本町においては、主要スポーツ施設は町内 10 分以内で移動が可能であり、スポーツドームや陸上競技場、兼久体育館など様々なスポーツ施設が東西に集中している。嘉手納スポーツドームにおいては雨天時においても屋内トレーニングが可能である。また那覇空港から本町まで車で約 50 分移動が可能な立地である。2022 年まで横浜 DeNA ベイスターズ（以下ベイスターズ）の 2 軍が嘉手納野球場にて春期キャンプを実施していた実績がある。また、芸術面においても「音楽によるまちづくり」を目指し、かでな文化センターにおいては音楽イベントも開催されている。次のページへ施設に関する情報を記載する。

| 分類 | 位置 | 施設名 |
|--------|------|--|
| スポーツ施設 | 東エリア | 嘉手納町野球場、嘉手納町陸上競技上、嘉手納町スポーツドーム、嘉手納町多目的広場 |
| | 西エリア | 嘉手納町ソフトボール場、総合運動場、テニスコート、兼久体育館、嘉手納町ソフトボール場 |

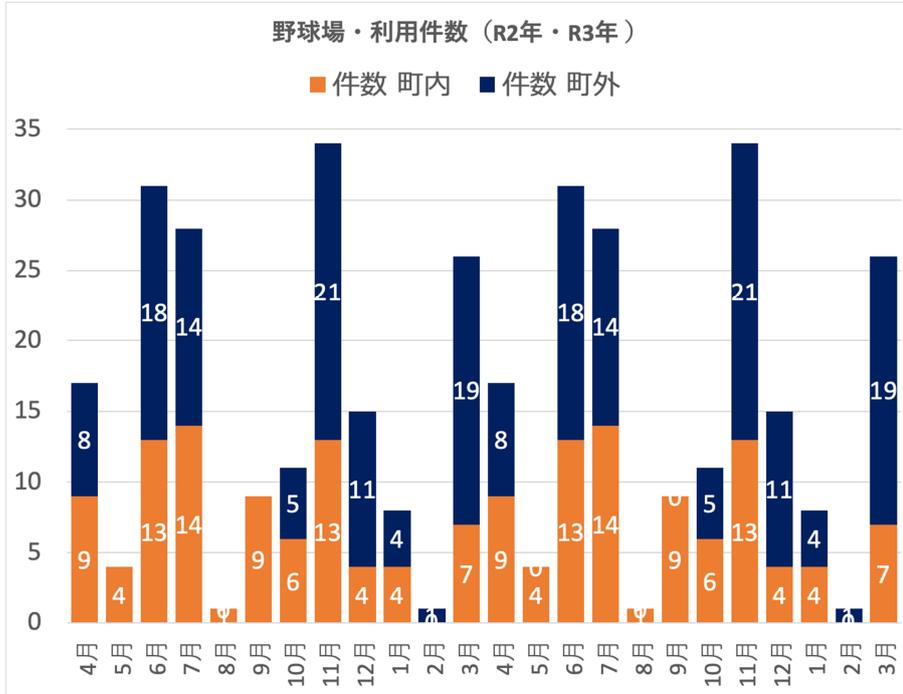
3-3 スポーツ施設の規模

| 名称 | 面積 | 収容人数 | 諸室・設備 | その他 |
|-------------|--|---|---|---|
| 嘉手納町陸上競技場 | 19,400 m ² | メインスタンド収容 : 1,200人 芝スタンド収容 : 2,100人 | シャワー室・会議室等 ナイター施設完備 | 全天候型 フィールド内 芝生 駐車場: 199台 |
| 嘉手納町野球場 | 両翼: 100m 中堅: 122m | 約 3,000 席 スタンド: 1,018 席 外野立見: 1,525 席 3 階立見: 426 席 車椅子、多目的、ホール席 | スタンド: 屋根有、 ナイター施設完備 ブルペン: 一塁側: 2 レーン 三塁側: 3 レーンスコ アボード: フルカラー (LED) | 全面人工芝 駐車場 普通車: 159台 大型車: 4 台 |
| 嘉手納町スポーツドーム | 10,734 m ² | 地上 2 階 (高さ 24.58m) | トレーニングルーム(エアコン完備) ソフトボール用ピッチングマシーン フットサル用ゴール | 駐車場: 159台 |
| 嘉手納町多目的広場 | 5,300 m ² 4,620 m ² (芝生) | 観客席としての設置なし | | 駐車場: ドームと兼用 |
| 兼久体育館 | 3,300 m ² アリーナ面積 1,891 m ² | 地上 4 階建て (高さ 21.0m) | 会議室、EV ホール、多目的室 トレーニング室、ランニングコース(160m) | 駐車場 普通車: 68台 大型バス: 4台 |
| 嘉手納町ソフトボール場 | 13,593 m ² | 観客席としての設置なし | ナイター設備完備 (6基) | 兼久体育館と兼用 |
| 嘉手納町テニスコート | 5,439 m ² | 無料・公共 | 砂入り人工芝×4コート ナイター施設完備 (15基) | 兼久体育館と兼用 |

3-4 スポーツ施設の利用状況

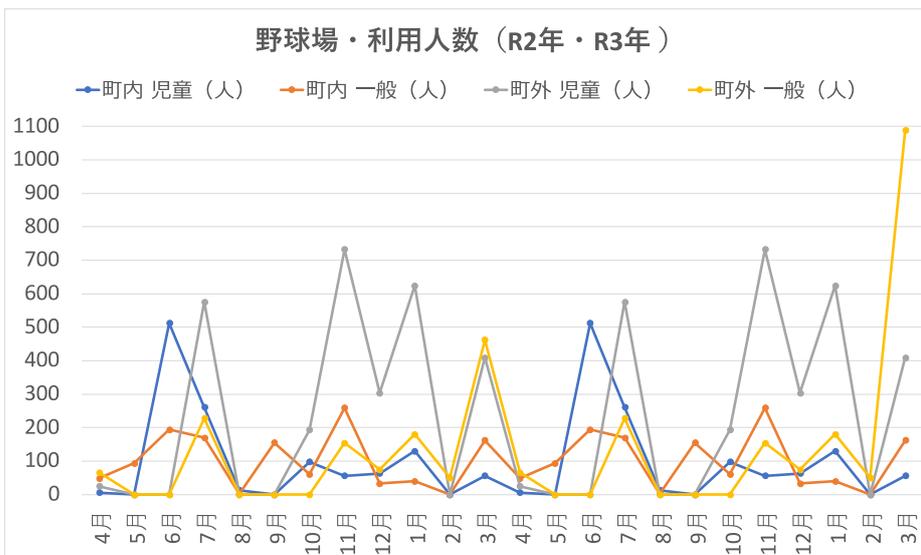
以下は直近2年分（令和2年・令和3年）各施設の利用人数である。

①野球場

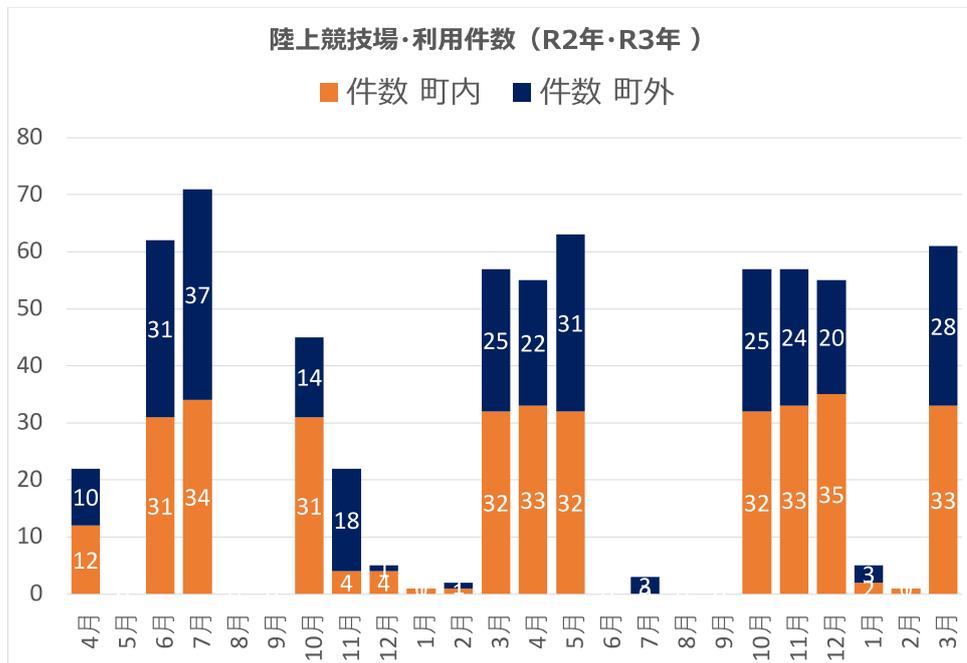


町内と町外と合計して年間を通じて利用率が高まる期間は6月～7月と11月です。3月も町外の利用件数が比較的高い傾向があります。

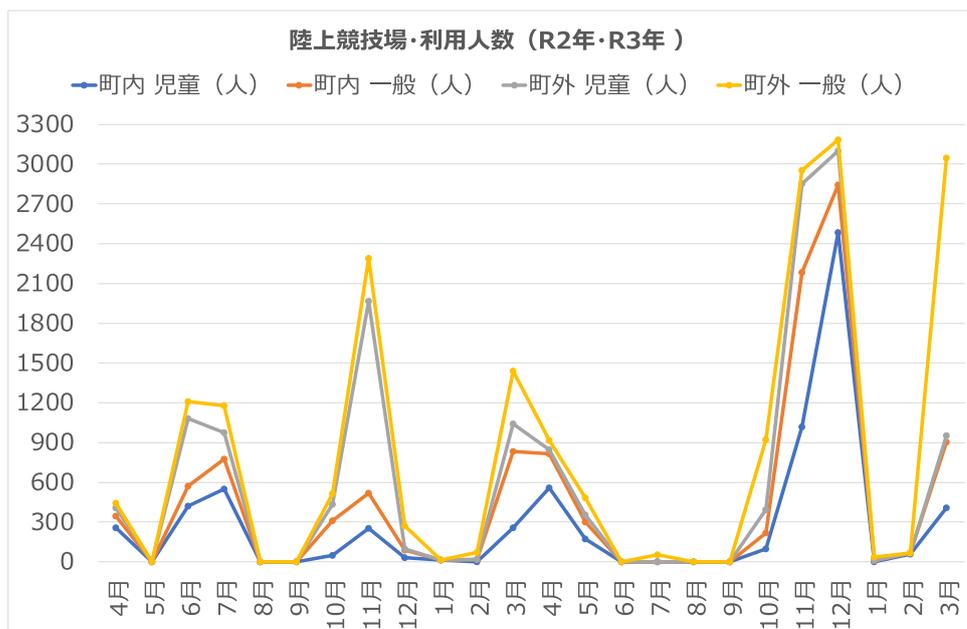
利用者の属性としては毎年5月～6月にかけて町内児童の利用率が高まっています。町外児童については、7月（600人）11月（750人）と1年で最も利用率が高い傾向にあります。



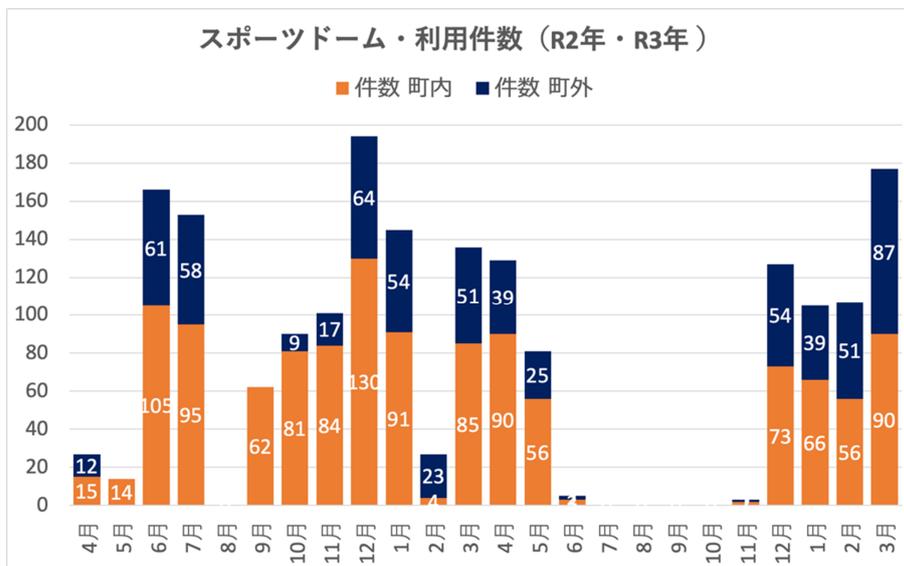
②陸上競技場



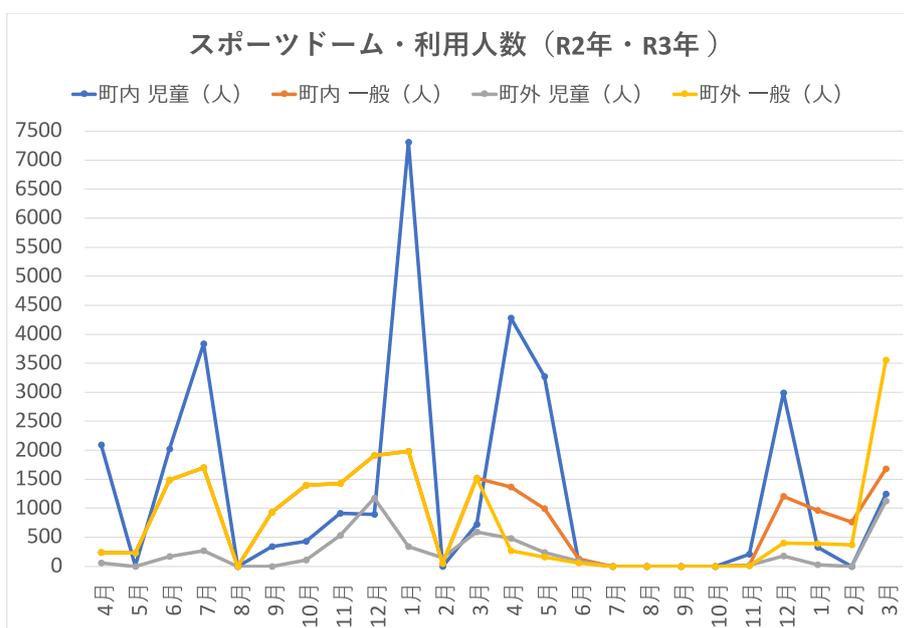
陸上競技場は特に夏季期間(8月～9月)及び冬季期間(12月～2月)利用率が毎年低くなり、6月～7月(平均65件)は町外の方の利用により、10月～12月(平均60件)は町内の児童・一般及び町外の児童・一般についても年間を通じて利用率が高い傾向にあります。



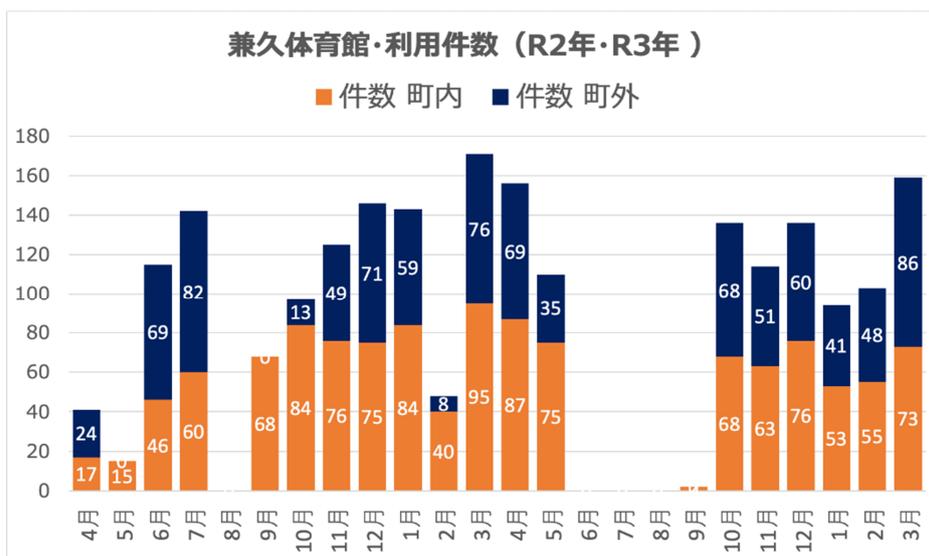
③嘉手納スポーツドーム



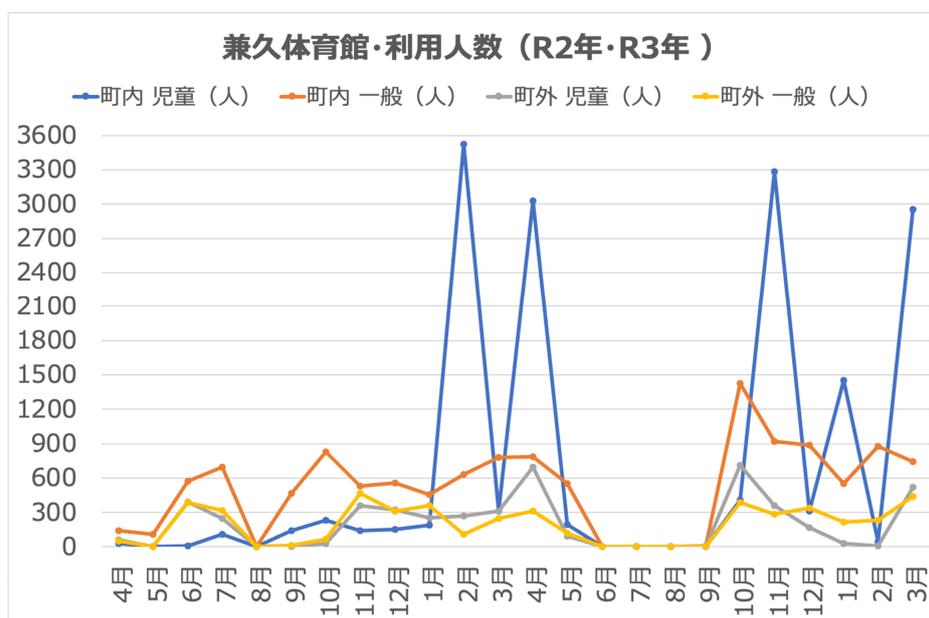
スポーツドームは6月～7月及び12月には町内の利用者による利用率利用率が比較的高い傾向にあり、8月～9月は例年稼働率が低い傾向にある。



④兼久体育館



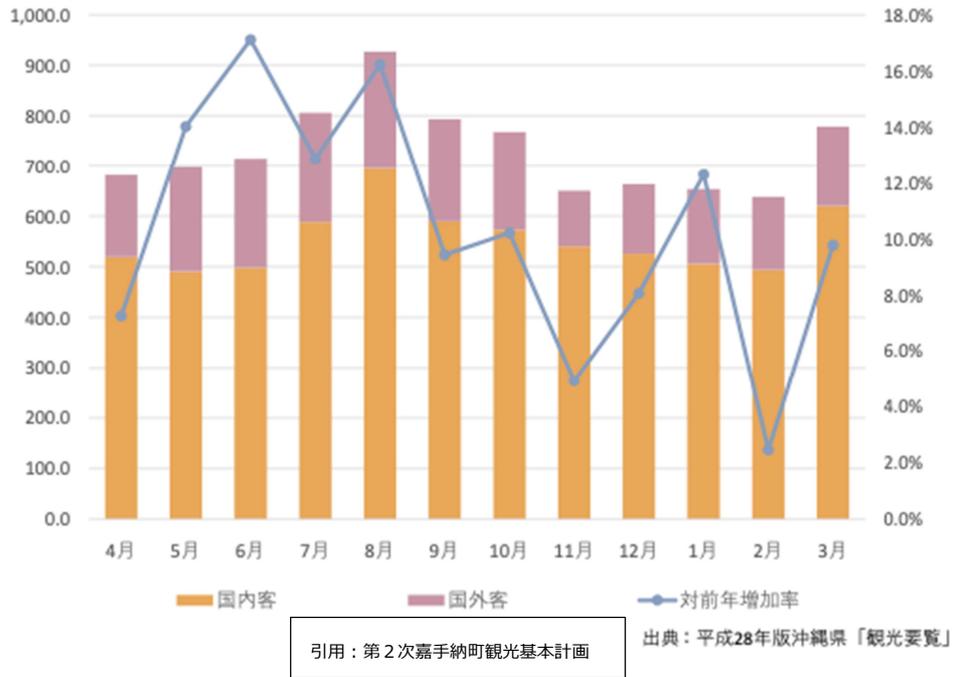
体育館はR2年度は6月～7月及び3月～5月が利用者が多い状態。8月や2月は稼働率が低いという結果が出ている。



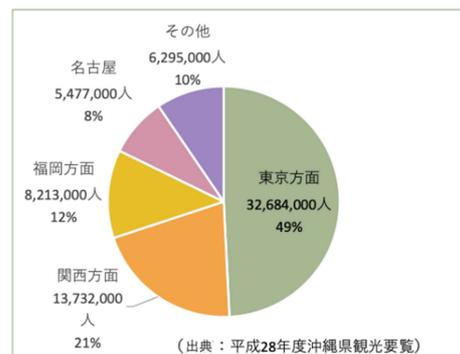
3-5. 嘉手納町と観光

○沖縄県の観光客の人数 [引用：第2次嘉手納町観光振興基本計画]

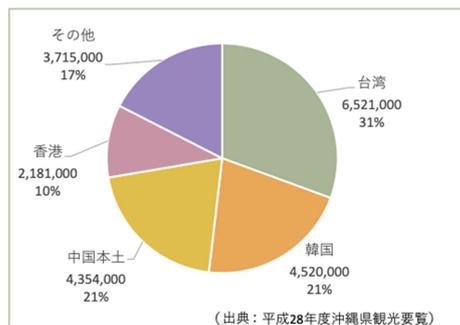
2017年8月度の入域観光客数は、100万2500人と、100万人を超える勢いとなり、単月での過去最高を更新しました。また2016年度は前年度に続き、全ての月で過去最高を更新したことに加えて、60万人以上を記録しており、11月から2月までのボトム期の底上げが進んでいる。



2016年度の国内客の入城状況については、国内旅行需要は全体として堅調に推移しました。東京方面が3268万人と約半年を占めており、次いで関西方面が1373万人、福岡方面が82万人と続いています。



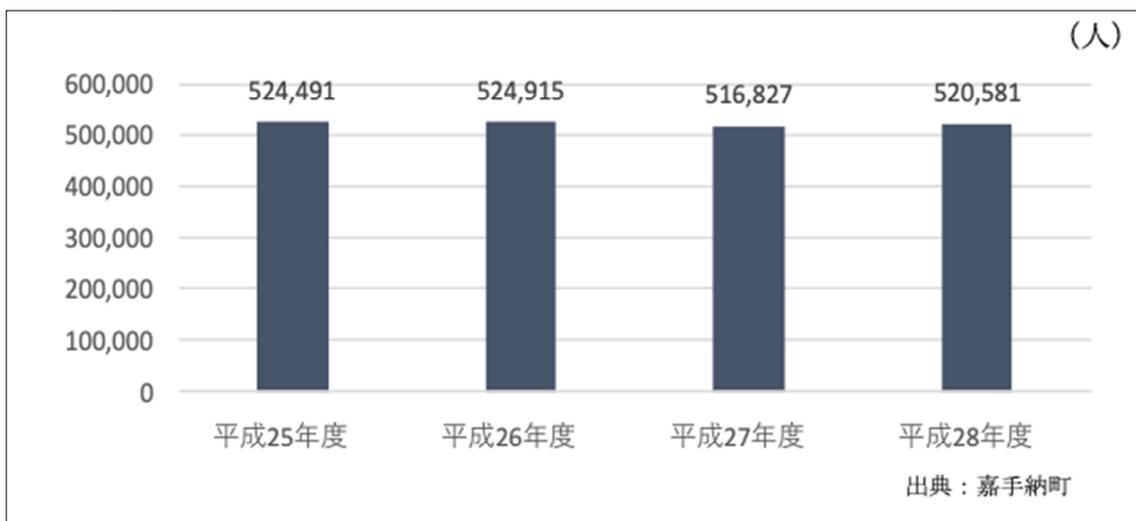
2016年度の国別の外国客入城状況としては、台湾が652万人と最も多く、次いで韓国が45万人、中国本土が43万人となっています。



○観光地（道の駅かでな）

「道の駅かでな」の年間来場者数は、毎年約 50 万人となっています。2016 年で 520,581 人となっています。2013 年の 524,491 人からは 3,910 人減少したものの、2015 年の 516,827 人からは 3,754 人増加しています。

○道の駅かでなの利用状況 [引用：第 2 次嘉手納町観光振興基本計画]



○道の駅かでな 月別入場者数

道の駅かでなの月別入場者数は、1 月が最も多く、次いで 5 月、12 月、3 月が多い傾向となっており、7 月、8 月、9 月の夏季が少なくなっていることから、修学旅行の影響により、入場者数が増減していると考えられます。



3-6 スポーツツーリズム受入状況

町内においては2022年まで横浜 DeNA ベイスターズの2軍の春期キャンプを中心にソフトボールチームや大学体育会・強化クラブ等の受け入れ実績があります。

【過去受入実績・実施キャンプ・平成30年度～令和3年度】

| 年度 | 受け入れ先 | 実施期間・受け入れ人数 |
|-----|----------------------|----------------------------|
| H30 | 韓国ロッテジャイアンツ | 10/27～11/24・2/6～3/8（40名程度） |
| H30 | 一関学院高等学校野球部 | 3/23～27（およそ50名程度） |
| H30 | ホンダ女子ソフトボール部 | 2/26～3/4（およそ30名程度） |
| H30 | 東京女子体育大学陸上競技部 | 3/26～3/29（およそ30名程度） |
| R1 | 横浜 DeNA ベイスターズ（ファーム） | 2/1～22（およそ70名程度） |
| R2 | 横浜 DeNA ベイスターズ（ファーム） | 2/1～22（およそ70名程度） |
| R3 | 横浜 DeNA ベイスターズ（ファーム） | 2/1～22（およそ70名程度） |

3-6-1 嘉手納町観光協会設立について

嘉手納町では、令和3年3月に嘉手納町観光協会が設立されました。

嘉手納町観光協会設立の目的と町の魅力を再発見し、観光資源に磨きをかけて「嘉手納の魅力」を広く発信し、協働による持続可能な観光のまちづくりの中心的な役割を担う存在として設立された。

3-6-2 宿泊施設及び・医療体制について

現在町内の宿泊先としては「宿泊特化型」と「ドミトリー・ゲストハウス型」として以下の施設がある。

| No | 宿泊施設種別 | 収容人員 |
|----|--------------|------|
| 1 | 宿泊特化型ホテル | 10 |
| 2 | 宿泊特化型ホテル | 12 |
| 3 | 宿泊特化型ホテル | 114 |
| 4 | 宿泊特化型ホテル | 26 |
| 5 | ドミトリー・ゲストハウス | 15 |
| 6 | ドミトリー・ゲストハウス | 4 |
| 7 | ドミトリー・ゲストハウス | 5 |
| 8 | ドミトリー・ゲストハウス | 6 |
| 9 | ドミトリー・ゲストハウス | 18 |

現在町内には医療機関としては以下の施設がある。

①ロクト整形外科（ロクト整形ホームページ <https://rokuto.com/>）

| | |
|------|---|
| 診察時間 | 【午前】平日・土日：9:00～13:00（日曜休診） 【午後】平日：14:00～19:00 休日：14:00～17:00 |
| 専門 | 打撲・捻挫・骨折・脱臼など、スポーツによる外傷、関節痛、首の痛み、腰痛、大腿部痛、脚のしびれ |
| 特徴 | ・リハビリテーション治療、スポーツチームサポート 医師・療法士・トレーナー・管理栄養士等のメディカルスタッフによるケガの予防やコンディショニング調整（※以下実績）①琉球コラソン、②FC 琉球チーム帯同 ②2018年～週に1-2回、2020年メディカルトレーナーで帯同 |
| 施設設備 | リハビリテーション室、X線装置、MRI など |



嘉手納町ほか、県内は浦添市、那覇市、県外は大阪府枚方市にも同クリニック拠点があり腰、膝、首などの慢性的な痛み、高齢者の骨粗鬆症、若年者から中高年のスポーツによる怪我などの診療を行なう

②医療法人仁誠会 名嘉病院：【平日】午前 9:00～12:30、午後 2:00～5:30

| | |
|------|---|
| 診察時間 | 【午前】午前 9:00～12:30 午後 2:00～5:30 【土曜】午前 8:30～12:30 |
| 専門 | 内科・外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科 |
| 施設設備 | 中央処置室・受付・事務室・薬局・検査室・リハビリ室、レントゲン室・MRI・CT・透視室ほか |

野球場リニューアルの施設について

・町内施設

嘉手納町屋良に位置する嘉手納野球場は、1987年(昭和62年)に開催された海邦国体において「ソフトボール競技の会場」として整備されました。また、本球場は、小、中、高等学校の野球やソフトボール大会等の会場として運用され、近年はプロ野球チーム横浜 DeNA ベイスターズのキャンプ施設としても利用されている。しかし、竣工から相当の期間が経過し施設機能の老朽や敷地の狭隘等から、今後も町民や青少年育成並び、観光活性化に寄与する施設として活用するには、当該施設に求められる機能拡充・充実の抜本的な整備かが求められている。以下はリニューアルの計画の内容です。

| | リニューアル前 | リニューアル後 |
|-----------------|-----------------------|------------------------------------|
| 大きさ | 両 翼:91.5m 中 堅:120m | 両 翼:100m 中 堅:122m |
| 駐車場 | 163台 普通車159台、大型車4台 | 163台 |
| スタンド | 屋根なし | 屋根あり |
| ブルペン | 屋外:3レーン | 一塁側:2レーン 三塁側:3レーン |
| スコアボード LED照明 | 手動式スコアボード | フルカラー (LED) W:14,080mm×H5,120mm |
| 照 明 | ナイター設備照度不足 | JISスポーツ照明基準 (Ⅱ類) |
| 芝 生 | 内野:赤土 外野:天然芝 | 全面人工芝 |
| 収容人数 | 約5,260席 | 約3,000席 |

次ページへリニューアルを実施する概要を記載します

LED照明・防球ネット1



スタンドに屋根を新たに設置、ナイター設備の照度UP
スコアボード・バックスリクリーン



高校野球・プロ野球開催の実態を考慮した質の向上



防球ネットを再整備しファウルボール周辺道路への対策

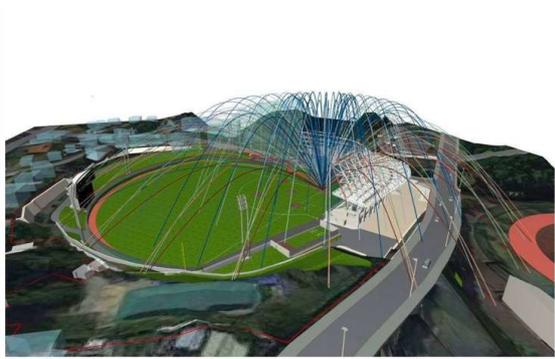
全面人工芝



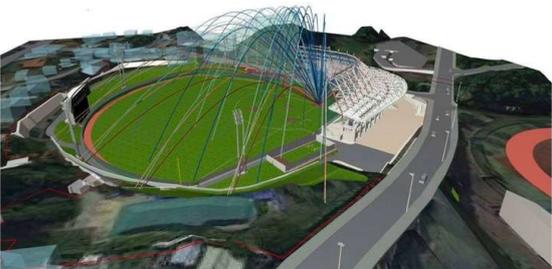
人工芝の種類については複数案から検討可能(別紙)



現状の野球場鳥瞰図



プロ野球の飛球イメージ
公道を含む場外へのファウルボールの改善を図る



現状高さ16.5mを30m~45mヘリリニューアルし
場外への飛球対策を行う



公道や周辺住宅側への飛球対策とする
公道と球場間の公園敷地内の防球対策へも寄与する

4. スポーツツーリズムにおける嘉手納町の課題

4-1. 施設面の課題

当町内にある老朽化したスポーツツーリズム施設は、プロ競技団体やアスリートにとって深刻な問題である。本町における以下の施設について、建設について、表を取りまとめた。ソフトボール場・陸上競技場の両施設とも平成21年度を最後に大規模な施設の改修がなく、老朽が進んでいる。

| 施設名 | 供用開始 | 施設改修内容 |
|---------|---------|--------|
| ソフトボール場 | 昭和59年4月 | 平成21年度 |
| 陸上競技場 | 平成7年5月 | 平成21年度 |
| 兼久体育館 | 昭和63年4月 | - |

施設の老朽化により、アスリートが充実した練習を行うことが出来なく、プロ競技団体を誘致する際に不利な条件となります。老朽化した施設では設備や環境の制約が生じ、アスリートの練習効果が低下する恐れがある。また成績やパフォーマンスに影響が出る可能性があり、プロ競技団体は優れた練習環境を求めており、老朽化した施設ではその要件を満たせず、競技団体誘致に支障をきたすことが予想される。

4-2 受入体制の課題

受入体制の課題として、受入の中止となる団体がいないため、チームとの連携が不足している。他の自治体では、チームや競技団体を受け入れるための専門の受入団体が設立されている。受入団体はチームと連携し、適切な受入環境の調整や生活面などのサポートの提供する役割を担っているが、本町においては、そのような状況がない。また受入団体の不在は、プロモーション活動にも支障をきたす。受入団体との連携が取れないため、プロモーションの効果や範囲が制約される可能性がある。本町においては、受入団体が存在しないため、地域連携の取り組みに影響があり、受入団体の確立や適切な連携体制の構築が求められている。

4-3 経済的な課題

本町においては、スポーツツーリズムにおけるキャンプ・合宿誘致の際にスポーツチームが使用する、宿泊施設がなく、合宿全体の合計消費額に占める約50%が宿泊費というデータより、経済的波及効果を高めるためには宿泊施設は必要である。

ベイスターズキャンプ地である、宜野湾市を例にすると、メイン野球場であるアトホームスタジアム宜野湾に隣接するラグナガーデンホテル：客室総数（303室）収容人数（961名）の宿泊施設をキャンプ期間20日以上に渡り使用し、町内消費割合の宿泊費用として20,000（千円）以上が市内に還元されることや、新たな雇用創出にも繋がることから宿泊施設についての課題は明確であり誘致に向けた取り組みが求められている。

5. スポーツツーリズムの意義

5-1 嘉手納町においてスポーツツーリズムを実施する意味（町におけるスポーツ振興の現状把握）

沖縄県におけるスポーツの親和性 = スポーツ × 観光

嘉手納町は、スポーツドームや陸上競技場、兼久体育館など様々なスポーツ施設が集約されています。また、嘉手納野球場および兼久体育館のリニューアル整備が予定されており、スポーツ施設が、益々充実してきます。昨年度「スポーツツーリズム基本構想」を策定し、国内外のプロスポーツチーム合宿や各種大会等の誘致に取り組みの方針が策定されました。

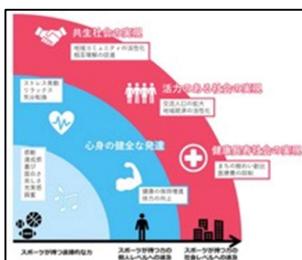
2022年まで横浜 DeNA ベイスターズファームもキャンプを実施した実績があり、近年スポーツチーム等の受入件数は増加傾向にある。来年度は誘致のために観光協会中心に町内受入体制を構築する。

嘉手納町におけるスポーツツーリズムの実施は、以下のような意義を持ちます。

嘉手納町では野球場と体育館のリニューアルが進んでおり、施設が充実するにあたり、快適な環境が整備される。これにより、競技団体やプロチームにとって充実した練習環境が提供され、高品質なトレーニングや試合の開催が実施可能となる。また東西にスポーツ施設が集約されている嘉手納町は、利便性とアクセスの良さが特徴である。複数の施設が近接していることで、競技団体や観光客は移動時間を節約し、効率的に施設を利用出来る。また、スポーツ施設の集約は観光客にとっても魅力的な要素であり、地域経済にも好影響をもたらす可能性がある。

さらに、嘉手納町では観光協会が設立され、スポーツツーリズムの推進に寄与する。観光協会は競技団体との連携やイベントの企画・運営、地域の観光情報提供などを通じて、スポーツツーリズムの受け入れ体制を構築している。これにより、嘉手納町はスポーツツーリズムの中心地としての魅力を高め、地域振興に貢献することが期待される。

▶スポーツ産業の中でもスポーツツーリズムの市場規模拡大が大きく見込める



「嘉手納飛行場等周辺まちづくり構想」により、市内体育施設のリニューアルが図られるため、施設を活用した地域活性化が必要である。嘉手納町では、平成 30 年 3 月に「第 2 次嘉手納町観光振興計画」が策定されている。当該計画で掲げられている基本方針のなかには「スポーツコンベンションの推進」が挙げられており、受入強化に向けた取り組みの推進が計画されている。については、スポーツ施設資源を活かした取組として、プロスポーツチームの合宿の誘致やスポーツ大会の誘致などスポーツを通じた新たな町づくりの戦略を構築する必要がある。

| ポテンシャル | 町側へのメリット |
|--|--|
| 多様なスポーツ施設が揃っている (施設リニューアルの実施・計画が図られている) | 施設リニューアルを通して、町民利用目的の施設が建設、住民の住みやすさの改善になる |
| 東西に屋内・屋外施設がそれぞれ集中しており、天候に左右されないトレーニングが可能な施設を保有している | 施設のリニューアルを通してさらなる観光振興や青少年の健全育成に繋がる |
| プロ・アマチュアのスポーツキャンプ・合宿の受入を行っている実績がある | 受け入れにあたっての実績（横浜 DeNA ベイスターズは協力会（友の会）があり町内機運醸成を図ることができる |
| 町内事業者による優良特産品や都市型観光の資源が豊富である | 食材をはじめ町の特産品を町外からの来訪者に提供することでプロモーションとなる |

本事業では、嘉手納町が保有する「ポテンシャル」を活かし且つ「課題点」の深堀りと改善策を踏まえた当戦略策定を目指すことで嘉手納町が掲げる「スポーツを通したまちづくり」を目指します。

6. スポーツツーリズムの方向性

本町におけるスポーツツーリズムのキャンプ・合宿誘致の方針が以下のように示されました。

「戦略的競技の選定」

戦略的競技とは、すでに実績があるものの、本町と競技団体に受入等の課題があり、課題解決に向けて戦略的に誘致を図っていくスポーツ競技のことである。以下の通り、サッカーとプロ野球を比較した際の経済波及効果に基づき本町として、プロ野球トップチームのキャンプ・合宿誘致の方針が決定した。

プロ野球はJリーグと比較するとキャンプの歴史が圧倒的に長い競技です。沖縄県内の野球人気は根強く、プロ野球キャンプ誘致が周辺産業及び地域活性化に与える影響が期待できます。以下の通り経済波及効果の観点からもプロ野球を戦略的競技として位置付けている。

【Jリーグ】キャンプ経済効果:6億5755万円

①実施期間:2021年1月～3月 ②実施チーム:計15チーム (J1 10、J2 10)

③選手、関係者人数:1,560人 ※2019年(計19チーム) : 経済効果:約24億7,196万円

【プロ野球】キャンプ経済効果:43億4700万円

①キャンプ実施期間:2022年2月 ②実施チーム数:9球団 (1軍・2軍 計14チーム)

③選手、球団関係者:約700人、道関係者・解説者:約18,000人、県外観客:約11,500人

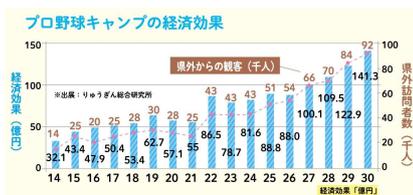
※2019年コロナ流行前: 経済効果:約141億3,100万円

| プロ野球 |
|---|
| キャンプ実施期間:2022年2月 キャンプ経済効果:43億4700万円 (1軍・2軍 計14チーム) 1軍キャンプ実施チーム数:9球団 選手、球団関係者人数:約700人 道関係者・解説者人数:約18,000人 県外からの観客:約11,500人 ※引用:りゅうぎん総合研究所より |

| Jリーグ |
|--|
| キャンプ実施期間:2021年1月～3月 キャンプ経済効果:6億5755万円 キャンプ実施チーム数:計20チーム (J1:10チーム J2:10チーム) 選手、クラブ関係者人数:1,560人 ※引用:りゅうぎん総合研究所より |

2019年(コロナ流行前)
経済効果:約141億3,100万円
 観客数(県外):約9万2,000人
 延べ観客数:約40万8,000人

2019年(コロナ流行前)
経済効果:約24億7,196万円
 Jクラブ:19チーム
 なでしこリーグ、韓国女子リーグ
 大学リーグ 合算にて



【過去最高】プロ野球:約141億円(2019年)

【過去最高】Jリーグ:約25億円(2019年)

プロ野球キャンプの誘致による経済効果は5.64倍(2019年)

さらに、プロ野球は一度誘致が決まると継続性があること、より安定的な経済波及効果を生むことが可能であり、スポンサーや親会社との関係性が深いことも戦略的競技の選定として位置付けた理由です。以下はプロ野球「DeNA ベイスターズ」とJリーグ「FC 東京」の経済波及効果に関わる内容をまとめたものです（※以下比較情報参照）

スポンサー





▶ 関東地方のキー局であるTBSがスポンサー
メディア露出の観点からも好影響である

▶ オーナ企業が変わるサイクルが早い傾向にある

SNS会員数

| | |
|---|--|
| <p>Twitter : 297,000人 Facebook : 159,200人 Instagram : 191,000人 Youtube : 197,000人</p> | <p>Twitter : 245,900人 Facebook : 63,900人 Instagram : 87,000人 Youtube : 39,300人</p> |
|---|--|

メディア露出効果



プロ野球は野球は運営母体に読売/中日新聞社/デイリー(阪神)といったメディアとの結びつきが強い。高校野球甲子園大会についても毎日新聞社・朝日新聞社が主催や後援を行なうなど、メディアリレーションによる認知の基盤があると言えます。



その他、プロ野球はキャンプ期間が1ヶ月とJリーグより長いことにおいても、町内のプロモーションについて、嘉手納町内観光スポット・飲食店等の紹介をはじめ町の持つ資源を活かし、町全体で機運醸成を戦略的に行うことが可能です。キャンプ期間内・キャンプ期間外において、県内企業や球団のスポンサーとの連携についても町内の新たな産業創出や地域課題の解決へ繋げることが期待できます。近隣市町村との連携についても町内・町外問わず、既存施設を相互に補完し経済波及効果の最大化を図ること、交流人口を増やすことを狙いながら計画を立てることとします。

課題として、プロ野球球団の1軍を誘致するためには、充実した練習環境の提供が必要とされます。具体的には、サブグラウンドをはじめとした周辺施設の充実が求められます。最近のプロ野球キャンプでは、従来の全体練習よりも、各選手の特長や課題に合わせたトレーニングが重視されており、個別指導が行われています。

6-1.スポーツチーム合宿誘致における「今後の戦略的競技の選定」

「今後の戦略的競技の選定」とは本町が今後受入の可能性について検討する競技団体です。

今後受け入れの可能性を検討している戦略的競技は、「サッカー」「ラグビー」「ソフトボール」の3競技です。その理由としまして、以下の要素を重視している。

本町には陸上競技場やソフトボール場の既存施設があり、競技団体のスポーツ合宿が実施できる環境が整っている。既存施設の活用により、競技団体は効果的な合宿プログラムを提供できるだけでなく、本町の施設の有効的な活用が期待される。

またスポーツ合宿や大会誘致の効果を重視して競技団体の選定を行っている。選定した競技団体は競技人口多く、スポーツ合宿や大会の誘致の可能性が高い団体。スポーツ合宿や大会の誘致は、地域経済の活性化や観光振興に大きく貢献することが期待される。

さらに「サッカー」「ラグビー」「ソフトボール」については近隣する市町村において、スポーツ合宿を受入れています。近隣市町村におけるスポーツ合宿の受入実績がある地域との連携により、その経験とノウハウを共有することが出来、取り組み事例を参考にしながら、本町でもスポーツ合宿の受け入れ環境を整えることができる。また、広域的なイベントの共同開催も重要な要素となる。近隣市町村との連携によって、大規模なスポーツイベントや大会の共同開催が可能となる。これにより、参加者数や競技レベルの向上、地域経済の活性化、観光資源の最大化など、広範な効果を期待することができる。地域間の連携を通じて、競技団体や参加者、地域住民にとって魅力的なイベントを共同で開催し、地域全体のスポーツ文化の発展を促進する。また、サッカー、ソフトボール、ラグビーはそれぞれシーズンが異なることにより、本町への合宿・キャンプ誘致が各々異なる時期に実施でき、スポーツ施設の稼働率を高めること、経済的波及効果を最大化させること、これらを狙いとして選定されている。

これらの要素に基づき、本町では既存施設の活用や競技人口の多さ、スポーツ合宿や大会の誘致の可能性が高い競技団体の受け入れを検討している。これにより、競技団体の活動の促進や地域経済・観光の振興、スポーツ文化の発展など、様々な成果を生み出すことが期待されている。

なお今後の戦略的競技団体を誘致するためには、改修から10年以上経過しており、施設面の改修を検討することが求められている。これらのキャリアに高まり、これらを狙いとして選定された、サッカー・ラグビー・ソフトボールの3種目の競技を指している。

3 種目を今後の戦略的競技として位置付けた経緯は以下です。

| 種目 | 競技人口① | | 競技人口② | | | 関係団体 |
|--------|---------------------|------------|--------------------|--------|--------|---|
| | 国内 | 世界 | 高校生 | 大学生 | 社会人 | リーグ/実業団ほか/カテゴリ |
| サッカー | 約436万人 (約91.9万人) | 約2億6,000万人 | 約16万人 約0.25万人 | 3,800人 | - | Jリーグ |
| ラグビー | 約9.5万人 | 約2000万人 | 1.7万人 | 約XX万人 | - | リーグワン |
| アメフト | 約1.5万人 | 約2300万人 | 約4000人 | 約1万人 | 約5000人 | XXXXXXXX |
| ソフトボール | 約17万人 | 約XXX万人 | 約1900人 | 4300人 | - | JD.LEAGUE参加チーム：16チーム (西地区：8T、東地区：8T) |
| テニス | 約343万 | 約1.1億人 | 成人週1回以上のテニス人口：89万人 | | | |
| 陸上競技 | 約42.5万人 | - | 11.1万人 | 約2万人 | 約9.4万人 | 各実業団所属選手 |

屋外競技を実施する場として町保有施設の一つに嘉手納町陸上競技場があります。

想定競には陸上競技ほか、サッカー・ラグビーが挙げられます。

施設面積：19,400m²（400mトラック）

全天候型、フィールド内芝生

①メインスタンド：1,080m²（収容人員：1,200人）

②芝スタンド：2,300m²（収容人員：2,100人）



嘉手納町陸上競技場・施設利用状況（2018年度、2019年度）



嘉手納町陸上競技場・施設利用状況（2020年度、2021年度）



トラックレーン数：陸上8レーン

嘉手納町陸上競技場の施設利用状況（2018年～2021年）

利用状況調査を行った結果、陸上競技場は特に夏季(8月・9月)冬季(12月・2月)利用率が低い

また以下の年間シーズンカレンダーからも、サッカー（12月～1月）ソフトボール（1月～3月）

ラグビー（8月～10月）の3競技を合宿・キャンプ誘致が各々異なる時期に実施できることを確認

陸上競技場においては現状施設環境ではトラック内側の芝生面積が小さいサッカーの公式戦開催はで

| 競技 | 対応施設 | カテゴリ | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|---------------|-----------|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| プロ野球【NPB】 | 嘉手納野球場 | | | | | | | | | | | | | |
| サッカー【Jリーグ】 | 嘉手納町陸上競技場 | WEリーグ | | | | | | | | | | | | |
| バスケット【Bリーグ】 | 兼久体育館 | Wリーグ | | | | | | | | | | | | |
| ラグビー【リーグワン】 | 嘉手納町陸上競技場 | | | | | | | | | | | | | |
| アメリカンフットボール | 嘉手納町陸上競技場 | 社会人 | | | | | | | | | | | | |
| ソフトボール【JDリーグ】 | ソフトボール場 | JDリーグ | | | | | | | | | | | | |
| バレーボール【Vリーグ】 | 兼久体育館 | 男子 | | | | | | | | | | | | |
| | | 女子 | | | | | | | | | | | | |
| フットサル【Fリーグ】 | 兼久体育館 | | | | | | | | | | | | | |
| 卓球【Tリーグ】 | 兼久体育館 | 男女 | | | | | | | | | | | | |
| 日本ハンドボールリーグ | 兼久体育館 | 男子 | | | | | | | | | | | | |
| アイスホッケー | — | 男子 | | | | | | | | | | | | |
| 大相撲 | — | | | | | | | | | | | | | |

きな

い点が課題ではあるが、当施設を改修すればサッカーだけではなく、ラグビーのキャンプ・合宿誘致の選択肢が新たに増えるため、現在の施設利用状況や課題を考慮し施設の改修が求められる。

ソフトボールとラグビーについては、女子日本代表やトップチームを読谷観光協会が中心となり誘致している実績もあることから、周辺地域との連携という視点も検討していきます。今後の戦略的競技の選定では、嘉手町のこれまでの実績と今後のスポーツ市場における各種競技の高まり、実態の調査を行うことで、上記3種目が将来的な市場や現在町が保有する施設の実態に合わせて可能性を高めることが可能な競技であることを確認しました。調査の結果に沿って改修計画を検討する方向を予定している。

周辺他地域との連携について

また近隣市町村との連携の観点において、隣接する読谷村についてはソフトボールでナショナルチームやトップチームの合宿受け入れ実績があるため、周辺地域とも連携し、町内だけではなく、町外からも交流人口を獲得できる可能性があり、経済波及効果を高めることに繋がる。（以下、近隣市町村の実績）

| —周辺地域地図— | | 場所 | 人口 | 競技 | チーム名 |
|----------|--|------|---------|--------|------------------------|
| | | 読谷村 | 41,801 | ラグビー | トヨタヴェルブリッツ 男子セブンズ代表 |
| | | | | ソフトボール | 女子日本代表 ビックカメラ高崎 |
| | | | | サッカー | サガン鳥栖・ Vファーレン長崎 |
| | | 北谷町 | 28,921 | 野球 | 中日ドラゴンズ |
| | | 沖縄市 | 142,887 | 野球 | 広島カープ |
| | | うるま市 | 12,570 | サッカー | FC 町田ゼルビア |
| | | | | 野球 | 阪神タイガース(2軍) |

6-2. 今後のアーバンスポーツについて

当スポーツは「東京五輪」の新競技としても注目され今後成長が期待されるスポーツである。新たな世代や顧客層が訪れる可能性を持ち、地域活性化にも繋がる。また他のプロスポーツと比較すると発展途上であり、町が育成や普及を担えること、アジア地域への玄関口である沖縄という地域で、国際大会の誘致が可能であることも選定の背景にある。中でもスケートボードの発祥地はアメリカであること、町には町内の多くを基地が占めており、アメリカ文化の影響を色濃く受けていることからアーバンスポーツ文化の土台が整っている沖縄、嘉手納町におけるポテンシャルは高いと言えます。これらの通りアーバンスポーツの誘致については多くのメリットがあるが、予算や周辺環境への影響など慎重に検討をしていく必要がある。地域の利益を最大化する形でアーバンスポーツの誘致について検討することが重要である。

● アーバンスポーツツーリズム研究会（スポーツ庁）

スポーツ庁では、令和2年にアーバンスポーツツーリズム研究会を立ち上げ、**アーバンスポーツの現状と課題の把握、可能性検討を目的とした会議を全3回実施**している。

（座長：日本スポーツツーリズム機構会長 原田宗彦氏）



第3章・戦略的競技の背景調査内（3-4 県外視察）で先進自治体の取組みとして、茨城県笠間市の視察内容について後述する。ムラサキパークかさまの取組み内容は以下である。

| 項目 | 内容 |
|-------|---|
| 取組み内容 | スケートパークを活用した地域ブランドの確立と大会・イベントの誘致を目指し、地域資源（文化・観光・特産品）と連携した取組みを実施。笠間市は、市内観光や宿泊客の割合が低く、伝統・文化などにおいても若年層への訴求力が低いことを課題としていたため、 新たにオープンしたスケートパークを活用した「スケートボードの聖地による好循環」 を目指した取組みを行っている。 |



* 具体的な取組み

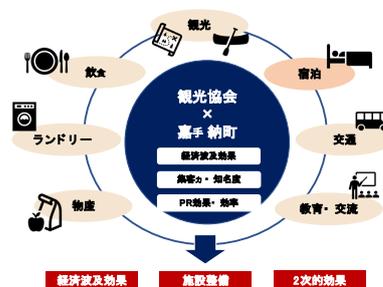
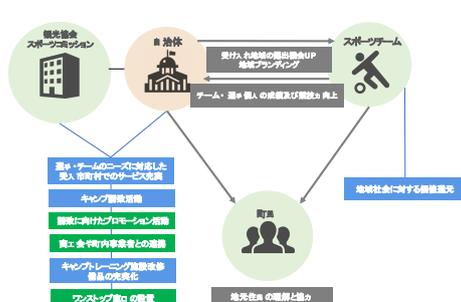
「プロ向け」のハイレベルな大会や「ジュニア向け」のキャンプ（合宿）など、ターゲットの異なる大会・イベント開催、スケートボードと地域資源を掛け合わせたモニターツアーなどによるアーバンスポーツツーリズムの可能性調査の実施など行っている。活動を担う人材の確保の方法として、**地域おこし協力隊や地域活性化企業人**などを活用している。

町内受け入れ体制について

様々なスポーツ施設が集約されスポーツ施設のリニューアル整備が予定されている施設が益々充実する中で、町内関係部局において当スポーツ環境を最大限に活用し、スポーツキャンプ・合宿等の誘致の際、町内が連携することで交流人口の拡大、更なるスポーツコンベンションおよびスポーツツーリズムの推進に取り組み地域の活性化に繋げることを目的として、以下のような受け入れ体制を構築する。

野球場や体育館のリニューアルが行われ、東西にスポーツ施設が集約されている。これにより、多様なスポーツイベントや競技大会の開催が可能となり、スポーツツーリズムの基盤が整っている。しかし、課題として受入団体が不在であり、チームとの連携が不足していることが指摘されている。他の自治体では専門の受入団体が設立されており、受け入れ環境の調整や生活面のサポートを行っているが、本町にはそのような体制が整っていない。

そのため、受入団体の確立や適切な連携体制の構築が求められている。今後の方向性として、受入団体を設立し、専門的なサポートや受け入れ環境の整備を行いながら、チームとの連携を強化していく必要がある。そのために、観光協会を中心とした受入団体の構築が求められている。観光協会と連携しながら共同のプロモーション戦略を策定し、地域の観光資源や特産品との連携を図ることも重要である。受入団体の確立や適切な連携体制の構築によって、スポーツツーリズムの誘致が成功し、本町の地域活性化や経済波及効果を実現することが期待される。



6-3. 受け入れ後の波及効果

スポーツツーリズムの推進において、本町には宿泊施設が少ないという課題があるが、地域の経済波及効果を最大化する必要がある。その中で、重要なのは関係人口の構築を図ることです。関係人口とは、地元の住民や事業者、地域コミュニティとスポーツツーリズムの関係性を築く人々のことを指し、彼らがスポーツイベントに関わることで地域経済への好影響が期待できる。

例えば、Jr スポーツを活用したイベントや大会誘致により、地元の施設やサービス業界への需要拡大が期待される。特に、地域の関係人口が増えることで地域経済への好影響がより大きくなると考えられる。これにより、スポーツイベントに参加する人々が本町に興味を持ち、地域の魅力や観光資源を体験する機会が増える。したがって、地元の観光業界や地域のビジネスにとって好ましい循環が生まれ、地域経済の活性化が見込まれる。

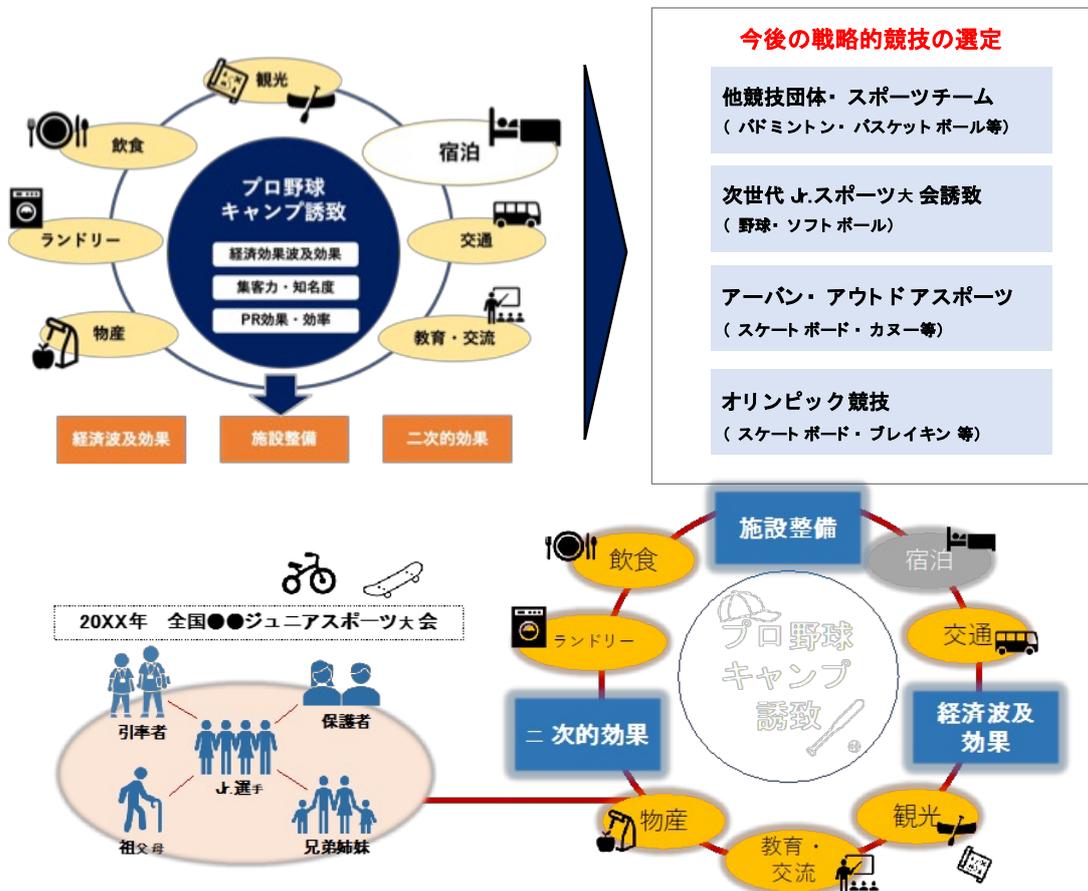
さらに、大会や合宿を誘致することにより、本町のスポーツとしてのイメージ向上に寄与し、スポーツツーリズムに関わる全ての満足度向上を得ることで、他の団体の関心を集め、町のブランディングに繋げていくことが期待される。

宿泊施設に限られている本町でも、受け入れ後の波及効果を最大化させるために、Jr スポーツなど戦略的に関係人口を増やす取り組みに注力することが重要である。地元の住民や事業者、地域コミュニティとの協力を図りながら、スポーツツーリズムの成功を通じて地域経済の持続的な成長と発展が期待できる。

スポーツツーリズムの推進において、本町には宿泊施設が少ないという課題があるが、その他の経済波及効果を検討することが重要である。次世代 Jr のキャンプ・大会誘致を通じて経済波及効果を最大化する運動性がある、キャンプや大会の誘致により、参加者や関係者が増加し、地元の施設やサービス業界への需要拡大が期待されます。彼らの滞在中には、飲食店やショップ、交通機関など地元のビジネスへの支出が増え、地域経済の活性化につながる。

また、参加者がイベントの合間に地域の観光名所を訪れることで、地元の観光業界も活発化する。観光資源の持続的な開発と利用が促進されるとともに、本町の観光都市としての魅力が高まる。さらに、成功したキャンプや大会は本町のスポーツとしてのイメージ向上に寄与する。参加者の満足度の向上や好評を得ることで、他のスポーツツーリストや団体の関心を集め、将来的な誘致活動につながる可能性がある。

宿泊施設が限られている本町でも、スポーツツーリズムの経済波及効果を最大化するためには、次世代 Jr のキャンプ・大会誘致を戦略的に展開し、地元の施設やサービス業界との連携を図ることが重要です。これにより、スポーツツーリズムの成功を通じて地域経済の持続的な成長と発展が期待できる。



7. ロードマップ

施設の改修・整備に際して、自治体だけではなく、観光協会や町内商工会、町内事業社、企業が一体となって受け入れ体制を構築することを目指す。また本町へ招聘するチームについて、町保有のスポーツ施設が合宿や大会などの開催時の課題整理や受入れ時の要望など、ハード・ソフト面を把握する。

・施設改修のスケジュール

| 年度 | 令和4年度 | | | 令和5年度 | | | | | | | | | | | | 令和6年度 | | | | | | | | | | | | 令和7年度 | | | | | | | | | | | |
|---------|-------|---------------------|----|-------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-------------|----|-------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-------------|--|-------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 年度 | 2022年 | 2023年(令和5年) | | | | | | | | | | | | 2024年(令和6年) | | | | | | | | | | | | 2025年(令和7年) | | | | | | | | | | | | | |
| 月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | | | | | | | | | | | | | | |
| 嘉手納野球場 | | 工事中(土木・建築・電気設備・機設備) | | | | | | | | | | | | 利用開始 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ソフトボール場 | 計画中段階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 兼久体育館 | | 解体工事 | | | | | | | | | | | | 建設工事 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋良城跡公園 | | 文化財事前調査期間 | | | | | | | | | | | | 撤去工事 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 陸上競技場 | 計画中段階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

引用：兼久体育館建設工事基本設計報告書【概要版】、嘉手納町野球場建設工事実施設計報告書【概要版】

・想定されるスケジュール案(年度ごと)

| 年計画 | | | |
|------|-------|--------------|-------|
| R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |
| 調査 | チーム招聘 | 基本計画作成・チーム決定 | チーム誘致 |

・今後のロードマップ

| | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|-------------------|------------|--------------|------------|-------|
| 1. 調査業務 | 戦略的競技の選定 | 受入関係者ヒアリング | | |
| | ツーリズム調査・分析 | アーバンスポーツ課題整理 | | |
| | 戦略的競技の選定 | 球団ヒアリング | | |
| 2. 運営支援業務 | 検討委員会資料作成 | 観光協会・商工会との連携 | | |
| | 検討委員会の開催 | 周辺地域との連携 | コミッション設立準備 | |
| 3. スポーツ基本構想策定支援業務 | | 町内受け入れ体制構築 | | |
| | | 基本計画取りまとめ | | |
| 4. 町内連携支援業務 | | プロモーション活動 | | チーム誘致 |
| | | チーム招聘 | 招聘チーム決定 | 運営 |